
プリキュアオールスターズ外伝 ～救済の戦士、もう一つの物語～

夢原信者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プリキュアオールスターズ外伝 〈救済の戦士、もう一つの物語〉

【Nコード】

N5699S

【作者名】

夢原信者

【あらすじ】

光明寺御子は私立セラフィム学園の中学2年生。

世界征服を企む悪の秘密結社ヘルビーストから世界を守る為、伝説の戦士として戦う事に！？

救済のプリキュアのもう一つの物語が今、幕を開ける！！

初めに

・閲覧上の注意・

この作品は『プリキュアオールスターズ 伝説の戦士の日常』、
『プリキュアオールスターズ 新たな日常と新たな戦い』、『
プリキュアオールスターズ外伝 キュアエルス・ビギンズナイト
』に登場する光明寺御子／キュアエルスを主人公としたスピノ
フ作品です。

世界観は他の作品とは別の世界という事になりますが、一部リンク
する発言等があります。なお、一応歴代プリキュア達も存在する世
界となっていますが、本編に絡んでくるかは未定です。

現在執筆中の『新たな日常と新たな戦い』と同時進行となりますの
で、どちらかの更新が遅れる可能性がありますので、あらかじめご
了承ください。

それではプロローグをお楽しみに！！

プロローグ

街中を1人の少女が駆け抜ける。緑色のロングヘアーが特徴的な少女の肩に乗っているぬいぐるみのような生き物が声を上げる。

「御子ちゃん!! アッチの方ファイー!!!」

少女「分かった!!」

御子と呼ばれた少女が、走りながら何か携帯電話のような物を構えると、次の瞬間、彼女は光に包まれた。

~~~~~

・・・街の奥の方では怪人一体が暴れている。

住民1「ぎゃー!!」

住民2「お助けー!!」

住民達がたちまち逃げていく中、怪人が逃げ遅れた少女に襲いかかろうとする。

少女「きゃあああ!!」

怪人の鎌が振り下ろされようとしたが・・・

少女「・・・え？」

いつまで経っても何も起こらず、恐る恐る見上げてみると、1人の少女が怪人の腕を掴んで動きを止めていた。

その少女の姿は緑色のドレスを纏い、ドレスの胸元には中央にハート型のクリスタルが付いた深緑色のリボン。スカートには黒のリボンが結ばれ、そして鮮やかなエメラルドグリーンのロングヘアー。  
「ハッ!!」

彼女は怪人をキックで吹っ飛ばすと、少女の方を向いて視線を合わせて声を掛ける。

「大丈夫？」

少女「う、うん。」

「よかった。」

そう優しく微笑むと、幼女を抱えて跳躍し、安全な場所に移す。  
??? 「ここでじっとしてて。」

そして怪人へと向かっていく。

怪人「グオオオオッ!!」

両腕の鎌を振り回して襲ってくるが、少女は全て交わすと、連続でキックを打ち込んでいく。

??? 「やあああああ!!」

怪人「グオオオオッ!」

再度切りかかってくるが、少女は紙一重に交わすと・・・  
??? 「ハアッ!!」

ドカアアアッ!!

回し蹴りで怪人を吹っ飛ばした。

??? 「これで・・・決める!!」

右足に電撃を纏わせ、そして・・・!!

??? 「プリキュア!! ライジング・クラッシュ!!」

少女の必殺キックを喰らい、怪人は爆発した。

ドカアアアッ!!

??? 「ふう・・・」

??? 「お疲れフィー、エルス!!」

緑髪の少女と一緒にいた小さな生き物が彼女に声を掛ける。

??? 「ありがとうエルフィー。それじゃあ・・・」

幼女「あ、あの!!」

立ち去ろうとしたらさっきの幼女に呼び止められる。

??? 「?」

幼女「あ、ありがとう・・・あの、お姉さんは・・・?」

そう問われた少女、少し驚いたような表情を見せるが、すぐ微笑むと、自身の名を告げる。

??? 「救済と新生を司りし閃光・・・キュアエルス!!」

・ ・ ・ 救済のプリキュア、キュアエルス ・ ・ ・ 彼女の誕生について  
は、今から1ヶ月前へとさかのぼる ・ ・ ・

第1話に続く。

## 第1話：新たな伝説！？キュアエルス誕生！！

光明寺御子は私立セラフィム学園の中学2年生。彼女の両親は科学者で、家は金持ちである。今彼女は登校中だ。

御子「ちよっと出るの早かったかな・・・？」

そう呟きながら歩いていると、目の前を一瞬何か小さな影が横切った。

御子「？今何か横切ったような・・・気のせいかな？」

少し気になったが、またそのまま歩き出した。しかし、近くに怪しげな人影があった事には気づいていなかった・・・

~~~~~

彼女は学園でも名のしれた存在で、クラスで男子生徒達が噂している。

生徒1「しかし光明寺、ホント理想の女性って感じだよな。」

生徒2「ホントホント。顔は可愛いし、頭が良くて運動もできて格闘技も得意。家は金持ちで親は科学者。それでいてそれをちっとも鼻にかけず、周りへの気配りも欠かさない優しい性格。非の打ち所が無いぜ。」

生徒3「中の人がああ恐怖の白い魔王の人だなんて思えないよな。」

生徒1「全く。アレが悪魔か魔王だとしたら、光明寺は本物の天使だよ。」

お前らそんな事言ったら殺されるぞ・・・（滝汗）

で、噂の当人というと、席について幼なじみの彩華と話している。

彩華「モテる女はツライわねこのこの。」

御子「かっからかわないですよ／＼／＼」

彩華「ホントの事じゃん。こないだもラブレター貰ったらしいし。」

御子「もう・・・／／／」

彩華「それよりさ、最近変な怪人が出るって噂知ってる？」

御子「怪人？ああ、お父さんから聞いてるよ。まだハッキリとは分からないみたいだけど。」

彩華「アンタの親科学者だし、厄介なのに狙われる可能性高いから気をつけなよ。」

御子「ありがとう彩華。」

~~~~~

・・・放課後、家に帰ろうとしている御子。今公園の中を通っている。

御子「今日は人がいないな・・・珍しい。」

そう呟いたちょうどその時、近くの茂みがガサガサと揺れた。

御子「ん？風も無いのに・・・」

次の瞬間、茂みから小さな何かが飛び出してきた、御子にぶつかった。

御子「きゃっ。」

胸元にぶつかってよろける御子だったが、体制を整えると、抱えている腕の中を見る。

御子「・・・？ぬいぐるみ・・・？」

???「エルフィーはぬいぐるみじゃないフィー。」

御子「喋った!?(汗)」

腕の中にいる黄緑色のウサギみたいな外見で背中に小さな天使の羽根がついている動物(?)に驚く御子。

御子「い、いったい何がどうなって・・・ん？」

よく見ると、少し怪我している。

御子「あなた、怪我してるよ。どうしたの？」

エルフィー「えっと・・・ッ!!き、来たフィー!!」

そう声を上げ、身を震わせ出すエルフィー。

御子「ど、どうしたの？」

エルフィー「速く逃げるフィー!!追って来たフィー!!」



???「やっと追いついたぞ!!」

声がして振り返ると、怪しげな黒服を着た大男が。

エルフィー「フイッ!!」

一層怯え出すエルフィー。

大男「やっと追いついた。そのガキ!!痛い目見たくなけりや大人しくその妖精、渡して貰おうか!!」

御子「妖精・・・?」

男の言葉に疑問を覚えながらも、怯えるエルフィーを見て、口調を強くして言い返す。

御子「よく分からないけど、この子怖がつてるじゃない!!渡せるワケない!!」

大男「あっそ。じゃあちよつとばかし痛い目に遭って貰おうか!!」  
そう言うとき熊のような外見の怪人を召喚した。

御子「怪人!」

大男「渡すなら今の内だぞ!!」

御子の腕の中で震え上がっているエルフィー。その時、御子が声を掛ける。

御子「大丈夫・・・」

エルフィー「フイ?」

御子「あんな奴にあなたは渡さない。だから泣かないで。」

エルフィー「フイ。」

大男を睨み付ける御子。

御子「この子は絶対に渡さない!!」

大男「は?お前ソイツと関係無いだろ?」

御子「確かに無いかも知れない。でも!!目の前で困ってるのに、見過ごすなんてできない!!この子は・・・私が守る!!」

そう叫んだ瞬間、エルフィーが光ったかと思ったら、御子の目の前に何か携帯電話のような物が現れた。

御子「こ、これは・・・?」

大男「なっ!?!き、貴様・・・まさか!?!」

エルフィー「この子が・・・もしかして!!」

抱かれていた御子の腕から離れると、彼女に声を掛ける。

エルフィー「早く!! その『ライトニング・コミュニケーション』で変身して!!」

御子「へ、変身!？」

エルフィー「こう叫んで!! 『プリキュア・ライトニング・トランス』って!!」

御子「う、うん。」

~~~~~

御子「プリキュア!! ライトニング・トランス!!」

ライトニング・コミュニケーションを頭上に掲げて叫ぶと共にコミュニケーションから光が溢れ出し、御子の全身を包むと、彼女の姿を戦士のそれへと変える。そして変身を遂げた彼女はこう口にした。

御子「救済と新生を司りし閃光・・・キュアエルス!!」

驚愕の表情を浮かべる大男。だがそれは御子・・・キュアエルスも同様だ。

エルス「な、何この格好!? それに口が勝手に・・・これっていったい・・・!？」

エルフィー「思った通りフィー!! やっぱりこの子が『伝説の戦士プリキュア』だったフィー!!」

歓喜の声を上げるエルフィー。

エルス「プリキュアって・・・私が!？」

彼女、プリキュアの実在はテレビニュース等で知っていた。まさか自分がそれになるうとは思わなかっただろう。

大男「プリキュアの覚醒は阻止できなかったか・・・だがここで倒してしまえば同じ事だー!!」

大男が殴りかかってきた。

エルス「きゃあああ!!」

咄嗟に腕を交差させて防ぐエルス。

大男「何い!?!」

エルス「くう・・・あれ?」

思ったよりは痛くなく、驚くエルス。

エルス「(あれだけの攻撃、普通なら痛いだけじゃ済まないはずなのに・・・それに、何だか体中に力が・・・これが・・・プリキュアの力!?!)」

大男「クソッ!! やれ!!」

怪人を向かわせてくる。

エルス「こうなったら・・・やるしかない!!」

身構えるエルス。振り下ろされた爪を交わし、逆にキックを打ち込む。

ドカアアッ!!

怪人「グオオオオッ!?!」

そのまま肉弾戦になるが、エルスは巧みに敵の攻撃を受け流しつつ、蹴りを叩き込んでいく。昔から父に護身用に格闘術を教え込まれてきた経験を生かし、的確に攻めていく。

エルス「やあ!!」

怪人に回し蹴りを喰らわすエルス。

大男「クソッ!! 妖精を狙え!!」

命令を受け、エルフィーに襲いかかる怪人。

エルフィー「フィィッ!!」

エルス「させない!!」

だが間一髪エルスが割って入り、怪人の攻撃を受け止める。

怪人「グルルル・・・」

エルス「くう・・・ううう・・・!!」

そのまま力比べになるが、腕力では怪人に分があるのか、エルスの踏ん張っている足が徐々に後ろに下がり始めている。

エルス「くううう!!」

エルフィー「エルス!!」

エルス「大丈夫・・・だよ・・・約束したでしょ? 絶対に・・・守

るって!!」

怪人の腹部に膝蹴りを叩き込み、怯んだ隙に押し返した。

怪人「グオオオオッ!？」

エルス「またくるよ!! 安全な所に隠れてて!!」

エルフィー「分かったフィー!!」

エルフィーが隠れた後、再度突っ込んできた怪人を掴み、巴投げした。

大男「クソ!! なんて強さ・・・!!」

エルス「これで・・・決める!!」

右足に電撃を纏わせると・・・

エルス「プリキュア!! ライジング・クラッシュ!!」

エルスの必殺キックで爆発する怪人。

ドカアアアン!!

大男「このままで済むと思うな!! 覚えていろ!!」

大男は逃走した。

エルス「勝つ・・・た・・・?」

息を整えるエルスにエルフィーが近寄る。

エルフィー「凄いフィー!! やっぱりプリキュアは強いフィー!!」

エルス「ありがとう。それより怪我は無い?」

エルフィー「平気フィー!!」

エルス「よかった。」

エルフィーの無事に安堵する一方、考えるエルス。

エルス「(謎の怪人にそれを操る大男・・・私に宿ったプリキュアの力・・・いったい・・・何が起きているの・・・?)」

第2話に続く。

~~~~~

・次回予告・

怪人を倒した御子は、エルフィーから彼女や敵、プリキュアの事に

ついて聞く。

そんな中、まして怪人が現れ、御子は再び変身する！！  
次回、『事情説明と御子の決意』

**第1話：新たなる伝説！？キュアエルス誕生！！（後書き）**

次回は説明回です。

## 第2話：事情説明と御子の決意

戦いを終えたエルス。胸に抱いたエルフィーの頭を撫でながら問い掛ける。

エルス「ねえ、教えてくれないかな？あの怪人達・・・それに、あなたの事。」

顔を上げるエルフィー。

エルフィー「エルフィーはフェアリーランドの妖精フィー!!」  
エルス「妖精？」

~~~~~

・・・一方どこかにある、いかにも悪の組織の秘密基地っぽい場所。???「ええい何たる失態か!!」

前回エルスと戦った大男が謎の声に怒鳴られている。

大男「しっしかし首領、プリキュアの力は思ったほか強大でして・・・」

首領「そんな事は百も承知だ!!だから覚醒を未然に防ぐ為に貴様を送ったのだろう!!あの忌々しいキュアフラワーに組織を壊滅寸前にまで追い込まれてから50年・・・ようやく活動を再開できるまでに復旧したのだ。たださえ目障りなダークエンジェル스가世界のリセットに動いている今、またプリキュアにでしゃばられては面倒なのだ!!一刻も早くその者を抹殺せよ!!」

大男「ハ、ハハッ!!」

~~~~~

・・・一方、御子とエルフィーは光明寺邸の御子の部屋で敵の事について話している。

御子「ヘルビースト？」

エルフィー「連中は世界征服を企む秘密結社フィー。まずはこの世

界を征服して、最終的に全部のパラレルワールドの支配もするつもりらしいファイー。」

御子「世界征服……」

エルファイー「最初に50年前に現れたんだけど、当時活動していたキュアフラワーに負けて逃げてたって聞いたファイー。でも最近また現れて、このままだと世界が危ないって、女王様からライトニング・コミュニケーションを渡されて、プリキュア探しに来たファイー。」

御子「コレの事だね。」

コミュニケーションを取り出す御子。

エルファイー「伝説の光の戦士の力を司るアイテムらしいファイ。」

御子「伝説の戦士の力が……私に……？」

前回の戦いを思い出す御子。

御子「確かに凄い力だった……プリキュアはニュースで何度か見た事があったけど、まさか私が……でも……私にできるのかな？世界を救うなんて……」

エルファイー「大丈夫ファイー！！初めてであれだけ力を制御できてたもん……！」

御子「そ、そうかな？結構必死だったし……（苦笑）」

~~~~~

……翌日、彩華と出掛ける約束をしていたので、2人でショッピングに来ている。

彩華「それでさ。ウチのお兄ちゃんシスコンでやんなっちゃうよ。」

「

御子「あはは……大変だね。」

何気ない会話をしていたが……

彩華「そういえば昨日さ、噂の怪人が公園に出たらしいよ。」

御子「へ、へえ……（汗）」

彩華「そんでさ、その怪人をプリキュアがやつつけたって……！」

御子「（ギクツ）そ、そうなんだ……（滝汗）」

彩華「・・・？どしたの御子？顔色悪いよ？」

御子「なっなんでもないよ・・・（汗）」

彩華「・・・ねえ、なんか隠してない？」

御子「えっ？そ、そんな事・・・」

彩華「嘘。何年一緒にいると思ってんのよ？そのくらい分かるわよ。」

御子「彩華・・・」

その時。

エルフィー「御子ちゃん！！邪悪な気配フィー！！」

御子のバッグに入っていたエルフィーが声を上げる。

彩華「ぬいぐるみが喋った!？」

御子「エッエルフィーこんな所で喋ったらダメだよ!!（汗）」

今周囲には彼女達しかいないとはいえ、彩華に思いっきり聞かれた。???「見つけたぞプリキュア!!」

声がした方を向くと、例の大男が。

御子「あなたは・・・!!」

大男「ヘルビースト大幹部、ネスト様だ!!邪魔者のお前に消えて貰いに来たんだよ!!」

彩華「な、何なのよコレ!？」

御子「（このままじゃ彩華が危ない・・・見られるけど・・・仕方がない!!）」

御子「彩華!!下がって!!」

彩華「え？」

前に出てコミュニケーションを構える御子。

御子「プリキュア!!ライトニング・トランス!!」

光に包まれ、変身する御子。

エルス「救済と新生を司りし閃光・・・キュアエルス!!」

変身したエルスを見て驚く彩華。

彩華「プップリキュア!？御子、あんた・・・」

エルス「説明は後で!!エルフィー、彩華をお願い!!」

エルフィー「フィー!!!」

2人を下がらせて、ネストに向き直るエルス。

ネスト「うおおおおお!!!」

エルス「はあああああ!!!」

互いに距離を詰め、打撃を打ち合う両者。

エルス「やああああ!!!」

隙を付いてエルスがネストを背負い投げした。

ネスト「うおっ!?!」

着地後、鎧怪人を召喚する。

ネスト「やれ!!!」

怪人「グオオオオ!!!」

エルス「クッ!!!」

剣を振り回して襲ってくる怪人の攻撃をかわすエルス。

エルス「素手で戦うのは危ないか・・・ん?・・・そうか、コレなら!!!」

頭の中に入ってきたイメージ通りに、ロッド型の『ライトニング・ロッド』を召喚し、ソードモードにする。

エルス「来なさい!!!」

怪人「グオオオオ!!!」

剣をぶつけ合う両者。

エルス「ハッ!!!」

怪人の剣を弾き飛ばし、そのまま斬りつける。

エルス「やあああああ!!!」

ズバァァッ!!!

怪人「グオオオオ!!!」

怯んだ怪人、今度は隠れていた彩華とエルフィーに目を付け、襲いかかろうとする。

彩華「ヒッ!?コ、コッチ来ないでよ!!! (汗)」

エルフィー「フィー!!! (涙目)」

怪人が襲いかかろうするが・・・

ガキンッ!!

怪人「グオッ!？」

間一髪、立ちふさがったエルスがプロテクションで2人を守っていた。

彩華「御子!!」

エルス「私の友達に・・・手出しはさせない!!」

そう叫ぶと、怪人の懷に一瞬で入り込み、零距离衝撃波で怪人を吹っ飛ばした。

ドーン!!

ネスト「クソ!! 何やってやがる!!」

ネストが飛びかろうとするが、エルスは右足に光を集めると、回し蹴りと同時に光刃として放つ。

エルス「エルス・ライトニングスラッシュ!!」

ネスト「ぐわっ!!」

ネストを吹っ飛ばし、怪人の方を向くと、ロッドに光エネルギーを集中させるエルス。そして・・・!!

エルス「プリキュア!! ライトニング・スラッシャー!!」

ライトニング・スラッシャーを受け、爆発する怪人。

ネスト「チッ!! またしても・・・!!」

ネストは逃げていった。

エルス「ふう・・・」

彩華達に駆け寄るエルス。

エルス「2人共!! 大丈夫だった!？」

彩華「へーきへーき!! それよりさ、どういう事か説明してくれない?」

彩華に全てを話すエルス。

彩華「そういう事・・・それならそうと早く言ってくればいいのに。」

エルス「ご、ごめん・・・」

彩華「いいよ。それよりありがと、守ってくれて!!」

エルス「彩華……」

少し恥ずかしそうに笑みを返すエルス。そしてエルフィーの方を向く。

エルス「エルフィー。」

エルフィー「フィ？」

エルス「やるよ、私。世界を守れるかは分からない。でも、あんな人達の為に誰かが傷つくの、見たくないから。」

~~~~~

・次回予告・

何故かヤケにプリキュアについて詳しい御子の両親。その理由は、御子の母、和子の過去にあった。20年前……彼女はなんと……・！？

次回、『受け継がれる意志、光明寺家の秘密！?』

## 第2話：事情説明と御子の決意（後書き）

次の更新は『新たな日常と新たな戦い』の方になります。

### 第3話：受け継がれる意志、光明寺家の秘密！？

光明寺邸の一室で、御子の父の正と母、和子が話している。

正「和子、御子の事なんだが・・・」

和子「あなたも・・・気づいていたのね。」

正「ああ。君もやはり気づいていたか。」

和子「今の私には力は無いけど、感じる事くらいならできるから。

確かに御子から感じるわ。プリキュアの力・・・」

正「血は争えない・・・という事か・・・」

和子「そうね。今度あの子に話そうと思うの。20年前の私の事・・・」

正「そうだな・・・」

話す2人の傍らには、キュアエルスについて書かれた新聞記事が置かれていた。

~~~~~

・・・ある日、御子の自室にて話している御子と彩華。エルフィーは御子の膝の上で寝ている。

彩華「プリキュアについてなんか調べてみない？」

御子「でもどうやって調べる？一般では雑誌とかに記事が載ってるくらいしか資料はなさそうだし・・・」

彩華「この屋敷の資料室は？あんたの親科学者だし、なんか調べてるかもよ？」

御子「うーん・・・行ってみようか。」

資料室に向かう2人だった。（エルフィーは御子が抱いてる）

~~~~~

光明寺邸・地下資料室

御子「えっと・・・ん？専用の棚がある・・・！！コレって・・・」

!!」

彩華「どしたの？」

御子「光の園、泉の郷、パルミエ王国、スイツ王国、心の大樹、メイジャーランド・・・プリキュアについて、系統別にかなり細かく調べてある・・・」

彩華「どういう事？なんであんたの親がそんなにプリキュアについて詳しいのよ？」

御子「分らない・・・」

そこに・・・

???「ここに居たのね。御子。」

声がした方を向くと、正と和子が。

御子「お父さん、お母さん。」

正「彩華ちゃんも一緒だったのか。話す事があったんだが・・・」  
彩華「あの!!なんでプリキュアについてここまで詳しいんですか!!？」

御子「そんな単刀直入に・・・(汗)」

和子「その感じだと、知ってるのね？御子がプリキュアだって事・・・」

彩華「え!？」

御子「な、なんでそれを・・・!？」

和子「分かるわよ。それにあなた、フェアリーランドの妖精よね？」  
エルフィー「そうフィー!!」

御子「な、なんで分かるの!？」

和子「だって私・・・昔プリキュアだったもの。」

・・・しばしの沈黙の後・・・

御子・彩華「ええええええええええええええええええええええええ!？」

2人の叫びがこだました。

~~~~~

・・・場所をリビングに移し、和子の話を聞く一同。

和子「今から20年前・・・今のあなたくらいの時、今暴れてるのは別の怪物達が攻めてきてね。その時にやって来たフェアリーランドの妖精から力を与えられて、私はプリキュアになったの。そう・・・今のあなたと同じキュアエルス・・・」

御子「お母さんが・・・キュアエルスだった・・・!?」

和子「そして私は、幼なじみだった正さんの協力を得て、怪物達を撃退する事に成功したの。それがキツカケだったわね。正さんと結婚したのも。」

正「ははは・・・(苦笑)」

彩華「へへ。でも凄い偶然だね、プリキュアだった和子さんの娘の御子もプリキュアになるなんて。」

和子「本当に偶然・・・かしらね・・・あるいは・・・」

御子「必然なのか・・・」

正「だが御子、大丈夫なのか？プリキュアであるという事は、戦わなければならないという事だぞ？」

御子「うん・・・でも私、悲しむ人を増やしたくないから・・・戦うって決めたから。」

和子「御子・・・」

その時。

エルフィー「御子ちゃん!! 邪悪な気配フィー!!」

同時に使用人がやってきて言う。

使用人「奥様!! 旦那様!! 外で怪人が暴れています!!」

和子「なんですって!？」

御子「私、行ってくる!!」

駆け出していく御子。

彩華「あっ!! 御子!!」

彩華も追いかけていった。

正「・・・やっぱり、君の子だな。一度決めた事はやり通す。20年前の、君みたいに。」

和子「ええ・・・私達も行きましょう。」

2人も後を追った。

~~~~~

庭で暴れている狼怪人。そこに・・・

エルス「ハアッ!!」

エルスがキックで跳ね飛ばした。

エルス「来なさい!!」

同時に飛び出す両者。怪人の爪を交わしながら打撃を打ち込んでいくエルス。

怪人「ガルルル!!」

振り下ろされた爪をキックで弾き、更に追撃を加える。

エルス「やあ!!」

怪人「グオオオオッ!？」

パンチで吹っ飛ばされた怪人。牙を剥き出し、エルスに噛み付こうとする。

エルス「クッ!!」

怪人の上顎と下顎を掴み、動きを止めるエルス。

エルス「くうう・・・やあ!!」

膝蹴りで怪人を吹っ飛ばし、必殺技の体制に入る。

エルス「プリキュア!!!ライジング・クラッシュ!!」

怪人は爆発した。

彩華「よっしゃあ!!」

エルフィー「強いフィー!!」

エルスの勝利に喜ぶ2人。それを影で見ていたネストは・・・

ネスト「クソ!!」また首領に怒鳴られる!!」

そう叫んで逃げていった。

~~~~~

正「和子・・・御子に重なって見えたよ。かつての君の姿が・・・」

」

和子「正さん・・・信じてみましょうか。『誰かを守りたい』っていう、あの子の想いを・・・」

正「ああ。それに、言っても聞かないだろうしな。昔の君みたいに。」

和子「もう・・・正さんったら・・・／＼／＼」

~~~~~

それから1ヶ月、彩華や両親の協力を得て、ヘルビーストと戦ってきた御子。そんなある日、彩華と話していた時の事・・・

♪タ・ト・バ!! タトバ!! タ・ト・バ!! ♪

御子「ん?なんでオーズの変身ソングが?」

彩華「・・・あ、メールニュース。」

御子「なんで着メロがオーズなの!? (汗)」

彩華「歌は気にするな!!」

お前はアंकか?

彩華「なにに・・・何コレ?」

御子「どうしたの?」

彩華「こんな内容なんだよ。近頃プリキュア以外で怪人を倒してる存在が目撃されたって。」

御子「プリキュア以外に・・・?」

~~~~~

・・・とある夜、何者かに吹っ飛ばされる怪人。

怪人「グオオオオッ!」

???? 「決めるぜ!! ツインリボルバー!! カートリッジロード!!」

『ロードカートリッジ』

巨大な光弾が放たれ、怪人は爆発した。

???? 「一丁あがりっ!!」

怪人を倒した相手は、二丁拳銃のような物を持った、青貴重のガン

マンのような服を着た少年だった。
果たして彼の正体は・・・？

~~~~~

・次回予告・

最近流れる青きガンマンの噂・・・時を同じくして、御子のクラスに転校生がやってくる。そして噂のガンマンが彼女の前に姿を現す！！

次回、『新たなる戦士』

### 第3話：受け継がれる意志、光明寺家の秘密！？（後書き）

今回は僕がダークピーチと同時に新たに作ったオリジナルキャラの登場です！！

何故かりりカルなのは系統のキャラにしてしまいました・・・（汗）

## 第4話：新たなる戦士（前書き）

僕の最新オリジナルキャラ登場です！！

## 第4話：新たなる戦士

ある日、御子が街を歩いていると・・・

「きゃー!!! 強盗!!!」

声がして振り返ると、覆面被った男2人がバッグ抱えて走ってくる。どうやら銀行強盗らしい。

強盗1「どけガキイイイ!!」

1人がナイフを振り回してくるが。

御子「ハッ!!!」

ドカッ!!

強盗1「グエッ!？」

御子はひらりと交わすと、回し蹴りでダウンさせてから取り押さえる。

強盗2「クソッ!!!」

御子「あっ!!!」

もう1人が逃げようとするが・・・

少年「ほれ。」

ドテーン!!!

強盗2「あだっ!？」

走った先にいた少年に足を引っ掛けられて転倒。その間に通りかかった警官に取り押さえられた。

・・・強盗が連行された後。

警官「いや、お手柄だよ、君。」

御子「い、いえそんな・・・それよりもう1人の子は・・・あれ?」  
気づいてみれば、さっきの少年が居なくなっていた。

御子「どこにいったんだろ・・・?」

~~~~~

・・・翌日の学校にて。

彩華「今日転校生が来るらしいよ。男子だって。」

御子「転校生？でもよく知ってるね。」

彩華「ふっふっふっ・・・あたしの情報収集能力を舐めて貰っちゃ困るよ。」

・・・しばらくして、先生が来て、転校生の紹介が始まる。

先生「えー、転校生を紹介する。転校生の罪門直也だ。みんな仲良くするように。」

直也「罪門直也です！！みんなよろしく！！」

パチパチパチ・・・

御子「（あれ？あの子・・・）」

御子は彼が、昨日の少年だと気づく。

御子「（転校生って、あの子だったんだ。）」

先生「えっと席は・・・光明寺の隣が空いてるな。」

御子の左隣に座る直也。なお、クラスの男子達から「ちくしょー、いいな。」との声が上がったとか・・・（笑）

御子「光明寺御子だよ。よろしくね、直也君。」

直也「よろしくな！！」

~~~~~

昼休み、直也と話す御子。

御子「あの、昨日はありがとう。強盗を足止めしてくれて。」

直也「いやー、たまたま通りかかったただだよ。それよりあんたの方が凄いだろ。強盗ノックアウトしちゃって。」

彩華「そりゃそうだよ。御子強いんだから！！今まで何度も誘拐されそうになったけど、その度返り討ちにしてるし！！」

彩華が会話に入ってくる。

御子「昔からお父さんに鍛えられてたの。だから・・・かな。」

直也「へー。」

彩華「それよりさ、何か知ってる？最近噂の青きガンマンの事。」

直也「ッ！！し、知らねーよ！！（汗）」

御子「!!（今・・・顔色が変わった・・・？）」  
彩華「ふん。」

~~~~~  
・・・放課後、下校中の直也だが・・・
『マスター。』

直也「ん？どうした？ツインリボルバー。」
直也の左手首のブレスレットのような物が喋った。

『半径1km内に怪人反応です。』

直也「また怪人かよ・・・プリキュアが・・・光明寺が来るまで黙って見てるワケにもいかないよな。いくぜ!!」

建物の影に隠れて、何やら変身ポーズのような物をとって叫ぶ。

直也「ツインリボルバー!! セットアップ!!」

次の瞬間、直也は青い光に包まれた。

~~~~~  
・・・一方御子と彩華。

彩華「え？あの子が何か知ってるんじゃないかって？」

御子「うん。さっき彩華が青きガンマンの話題を出した時、表情が変わってた。それに・・・なんだか感じるの。あの子から不思議な感じを・・・」

彩華「うーん。」

その時。

エルフィー「御子ちゃん!! 邪悪な気配フィー!!」

カバンからエルフィーが出てきて叫ぶ。

彩華「また!!?」

御子「どっちの方から!？」

エルフィー「アッチの方フィー!!」

エルフィーが示した方に走っていく2人であった。



~~~~~

・・・向かった先では、エビ怪人が暴れていた。

怪人「グオオオオオオ!!」

住人1「ギャー!!」

住人2「ひえゝ!!」

彩華「御子!!」

御子「うん!!」

コミュニケーションを取り出す御子。だがその時・・・
ドーン!!

怪人「グオオオオッ!」

何者かの攻撃で怪人が吹っ飛ばされた。

御子「・・・え?い、今の誰が・・・?」

エルフィー「御子ちゃん!!あれ!!」

エルフィーが示した方向を見ると、そこには1人の少年の姿が。その姿は青を基調とした、西部劇のガンマンを思わせるコスチュームで、両手には青いカラーの二丁拳銃のような物が握られている。

彩華「あ、あれってまさか・・・噂のガンマン!」

少年は怪人に銃を向けて言い放つ。

少年「さあ・・・覚悟しな!!」

怪人が突っ込んでくるが、少年は二丁の銃から光弾を連射し、怪人の接近を許さない。

怪人「グオオオ!!」

たまらず距離を離そうとするが・・・

少年「逃がすか!!マッキングショット!!」

銃から誘導弾を放ち、怪人を撃ち抜く。その時、少年の顔を見た御子が叫ぶ。

御子「あれって・・・直也君!」

彩華「ええ!」

そう、少年の正体は直也だった。言ってる内に怪人を追いつめると・・・

直也「これで決めるぜ!!! ツインリボルバー!!! カートリッジロード!!!」

『ロードカートリッジ』

二丁の銃の銃口にエネルギーを集め、そして……!!!
直也「リボルバースパニッシャー!!!」

巨大光弾を2発同時に放ち、怪人を粉碎した。
ドカアアアアアン!!!

直也「一丁あがりつと!!!」

御子「凄い……ッ!!!」

見ると、直也の背後からネストが襲いかかろうとしており、御子はコミュニケーションを構える。

ネスト「邪魔しやがってこのガキイイイ!!!」

直也「ッ!!!」

構える直也だが。

エルス「はあああああ!!!」

ドカアアアッ!!!

ネスト「グエッ!!!」

変身したエルスがネストを蹴り飛ばした。

エルス「大丈夫?」

直也「おっ来たかキュアエルス。いや……光明寺。」

エルス「!? な、なんで私の正体を……!?!」

直也「そんなくらい調べておいたさ。『この世界』に来る前に。」

エルス「『この世界』に……? あなた、いったい……」

直也「それより今は……」

ネストの方を向いて言い放つ。

直也「時空防衛局だ!!! ヘルビースト大幹部ネスト!!! 大人しく捕まって貰うぜ!!!」

ネスト「し、しまった……時空防衛局か!!!」

エルス「時空防衛局……?」

動揺するネスト。エルスは何の事か分からない。

ネスト「クソー!!」

ネストが突っ込んでくるが・・・

エルス「プリキュア!! ライジング・クラッシュ!!」

ライジング・クラッシュを受けて吹っ飛ばされる。

ネスト「グッ!! くそ・・・防衛局に嗅ぎ付けられるとは・・・首

領に報告を!!」

撤退するネスト。

直也「あっ!! 逃げたか・・・」

エルス「直也君、あなたはいい・・・?」

次回に続く。

~~~~~

#### ・次回予告・

直也から事情を聞く御子達。彼は別世界から来たらしいが・・・?  
次回、『新たな仲間』

#### 第4話：新たな戦士（後書き）

時空防衛局については日々野未来さんの小説をご参照ください。  
次の更新は『新たな日常と新たな戦い』の方になります。

## **オリジナルキャラ達の設定（前書き）**

本作のオリジナルキャラ達の設定です。

## オリジナルキャラ達の設定

・エルファイ・

妖精の国フェアリーランドの妖精。女の子らしい。

容姿は黄緑色のウサギのようで、背中に小さな天使の羽根が付いている。飛ぶ事もできるが、あまり長くは飛べない。

世界の危機に際して自国の女王からライトニング・コミュニケーションを渡され、プリキュア探しに来た。ヘルビーストの怪人に追われていた所を御子に救われ、彼女にプリキュアの力を与える。

明るい性格で、自分を助けてくれた御子に懐いている。語尾に「フイー」と付ける。

イメージC V…谷井あすか

・夢野彩華／キュアフレイム・

14歳。御子の幼なじみで親友。

明るく活発な性格で友達思い。

ヘルビーストの怪人と遭遇した際にエルスに変身した御子に救われ、彼女がプリキュアになった事を最初に知る事に。以後、協力者として彼女をサポートする。

第9・5話にて、作者から託されたメダルキュアーによってキュアフレイムの力を得る。

イメージC V…渡辺明乃

・光明寺正・

御子の父親で科学者。35歳。正義感の強い性格。

20年前、当時プリキュアとして活動していた和子をサポートし、それがキッカケで結婚した。

御子にとって父親であると同時に格闘術の師でもある。

プリキュアとなった御子を心配しつつも、和子と共にサポートする。

イメージCV…堀内賢雄

・光明寺和子・

御子の母親で、夫同様科学者。34歳。夫同様正義感の強い性格。実は20年前にプリキュアとして活動していた、先代のキュアエルスで、花咲薫子／キュアフラワーとも面識がある。

今は力を有していないが、力を感じる事はできるらしく、御子がプリキュアになった事もすぐ見抜いた。

娘の『誰かを守りたい』との想いを信じ、正と共に彼女をサポートする。

イメージCV…木村亜希子

・罪門直也・

14歳。時空防衛局所属の少年で、防衛局でも屈指の怪人ハンター。専用デバイス『ツインリボルバー』を使用し、戦闘時はガンマン風のバリアジャケットを身に纏う。熱血系の性格である。

とあるプリキュアの世界の出身らしく、また、御子／エルスについては事前に調べていた。

幼くして両親が離婚し、姉と別々に引き取られて、自分は母親に引き取られていたが、1年前に母が病死し、別々に暮らしていた父は何らかの理由で死亡。連絡を取り合っていた姉も消息不明となっていたところを防衛局に引き取られた。

ヘルビースト壊滅の命を受けてこの世界に来訪し、御子達と巡り合う。

なお、『プリキュアオールスターズの世界』のプリキュアハウスや星川勇奈とは協力関係。

姉、直美は、生きていれば20歳らしい。

イメージCV…比嘉久美子

## 第5話：新たなる仲間（前書き）

キャラ紹介に罪門直也を追加しました。  
なお、デバイス音声は日本語訳されています。



## 第5話：新たなる仲間

前回の翌日の放課後、直也から話を聞く為に自宅で両親を交えて話す事に。今ラジオを聴きながら直也の到着を待っている。

『はい、次のお便りはペンネーム、眠りの小五郎さん。『昨日噂の青きガンマンを見た。何！？本当だったの！！』本当でしょうか？さて次は、ペンネーム、暗黒少年さん……』

彩華「まさかこの噂のガンマンが直也君だったなんてね……」  
御子「お父さん達、何か知ってる？プリキュア以外の戦士の事。」

正「聞いた事無いな。」

和子「私も初耳だけど……エルフィー、分かる？」

エルフィー「分かんないフィ。」

少しして……

使用人「お嬢様、お客様です。」

御子「あ、ありがとう。直也君が来たのかな……？」

その後、直也が入って来た。

直也「お邪魔します。」

和子「あなたが直也君ね。こちらへどうぞ。」

直也「はい。」

座ってから……

御子「それじゃあ……教えてくれないかな？あなたの事。」

直也「俺の事ね。簡単に言えば、ヘルビーストをぶっ潰しに来た異世界の使者ってトコだな！！」

エルフィー「それだけじゃ分かんないフィ。」

『マスター……大ざっぱ過ぎです。』

直也「あ、悪い悪い。」

待機モードのツインリボルバーがツツコミを入れる。

彩華「ブレスレットが喋った!？」

直也「ん？ああ、コイツは俺のデバイスのツインリボルバーだよ。」

『よろしくお願いします。』

御子「デバイス……?」

直也「今度はちゃんと……まず、俺はこの世界の人間じゃない。別の世界から来たんだ。」

一同『別の世界!?!』

御子「それって……パラレルワールドから来たって事?」

直也「そう。『リリカルなのはゼロの世界』って呼ばれてるけど、そこには時空防衛局っていう、全世界の平和を守る為の組織があるんだ。ちよつと昔の名前は時空管理局だけだな。」

正「時空防衛局……じゃあ君はその?」

直也「はい。その世界には魔導師っていうのとか仮面ライダーとかウルトラマンとかがいます。俺は魔導師で、防衛局で怪人ハンターをやってたんですけど、ヘルビースト壊滅を指令されて、この世界に來たんです。」

御子「なるほど……」

彩華「でもあたし達と同一年なのに凄いね、世界を守る仕事に就いてるなんて。」

直也「そうか?俺の場合、防衛局への恩返しの意味もあるけど……」

御子「恩返し……?」

直也「ああ……俺、こことは別のプリキュアの世界の出身なんだけど、両親が早くに離婚してさ……俺は母さんに、年が離れた姉さんは父さんに引き取られてたんだ。でも一年前……母さんが病死してさ……原因は分からないけど父さんも死んで、連絡を取り合ってた姉さんも消息不明に……」

御子「!!」

直也「それで身よりが無くなって、行き場が無かった所をたまたまその世界に來てた防衛局の局員に引き取られたんだ。」

御子「そうだったんだ……」

直也「それで、なんとか恩返ししたくて、魔力資質はあったから機

動六課の魔導師達の戦闘データを基にツインリボルバーを作って貰って、局員に。」

正「そうか・・・ところで、お姉さんについては？」

直也「はい・・・罪門直美。六つ違いの姉さんでした。生きているって信じてはいますけど・・・生きていれば、今年で二十歳の筈です。」

正「そうか・・・」

~~~~~

・・・一方ネスト。

ネスト「クソッ！！また首領に怒鳴られた・・・防衛局にまで嗅ぎ付けられて、それもこれもみんなプリキュアのせいだ！！今度こそは・・・！！」

~~~~~

・・・御子の部屋で話している御子達。

彩華「防衛局でどんな事してたの？」

直也「んゝ、基本的には暴れる怪人の撃退だな。あ、でも、別の世界にあるプリキュアハウスってトコと防衛局との橋渡し役とか情報提供なんかもしてたぜ。」

御子「そんな施設が・・・」

実は別の世界の御子がその施設と深く関わっているのだが、当然彼女はその事は知らない。

ゝラッタラッタゝラトラゝタゝ♪ゝ

直也「ん？なんでオーズの変身ソングが・・・」

彩華「・・・あ、電話だ。」

御子「今度はラトラーター！？（汗）」

彩華「歌は気にするな！！」

だからアंकか？

ピッ！！

彩華「もしもし・・・パパ？どうしたの・・・え！？街で怪人が暴れてる！？分かった！！」

ピッ！！

直也「またかよ・・・懲りない奴らだな。」

御子「行こう！！」

~~~~~

街では怪人2体が暴れている。

ネスト「もつと派手にやれ！！」

「待ちなさい！！」

そこに、御子達が現れる。

ネスト「チッ！！来やがったか・・・！！」

御子「これ以上好きにはさせない！！」

直也「そんじゃいくとすつか！！」

変身体制に入る2人。

御子「プリキュア！！ライトニング・トランス！！」

まず先に御子が変身。

エルス「救済と新生を司りし閃光・・・キュアエルス！！」

そして続けて。

直也「ツインリボルバー！！セットアープ！！」

変身する直也。

直也「決めるぜ！！」

ネスト「クソ、アイツもいるのかよ！！」

直也「アッチの奴は俺がやる！！そっちは任せた！！」

エルス「分かった！！」

それぞれ怪人に向かっていく。

怪人「グオオオオ！！」

トラ怪人が直也を襲うが・・・

直也「喰らうかよ！！リボルバーショット！！」

直也は難なく回避し、魔力弾を連射する。

怪人「グオオオオッ!？」

攻撃を喰った怪人は今度は高速で移動して錯乱させようとするが・・

直也「そんなくらい!! マーキングショット!!」

追尾弾を放ち、動きを止めさせる。

直也「チャージショット!!」

大型魔力弾で上空へと吹っ飛ばした。

ドーンッ!!

直也「ツインリボルバー!! カートリッジロード!!」

『ロードカートリッジ』

直也「ぶっ飛べ!! リボルバースパニッシャー!!」

リボルバースパニッシャーを受け、上空で爆発する怪人。

ドカアアアン!!

一方エルスはバツタ怪人と交戦。

怪人「グオオオオ!!」

怪人の攻撃を巧みに受け流しつつ、打撃を叩き込んでいく。

エルス「ハアッ!!」

殴りかかってきた怪人の腕を掴み、チョップを打ち込むと、そのまま投げる。

怪人「グオッ!？」

起き上がった怪人がキックを放ってくるが、ガードして逆にキックを打ち返す。

ドカッ!!

エルス「決めるよ・・・」

両足に電撃を纏わせ、そして・・・!!

エルス「プリキュア!! サンダースピンキック!!」

必殺の二段回し蹴りで怪人を倒した。

ドカアアアン!!

ネスト「クソッ!!」

撤退するネスト。

彩華「2人共凄いよ!!」

エルフィー「カッコ良かったフィー!!」

直也「サンキュー!! それでさ、もし良かった、お前らと一緒に戦わせて貰っても・・・いいかな？」

エルス「もちろん!! よろしくね、直也君!!」

直也「ああ!!」

こうして、罪門直也という新たな仲間を加えた御子達。果たして彼女達を待ち受ける物語とは・・・？

第5話：新たなる仲間（後書き）

次回の内容は未定です。

直也の姉、罪門直美はこの作品には特に絡んではきません。『この作品には』ですが・・・

直也の戦闘時のステータス設定

身長…162cm

体重…52kg

【容姿】

西部劇のガンマンを連想させるバリアジャケットを身に纏う。
カラーは青基調。

【戦闘スタイル】

ツインリボルバーによる銃撃を駆使する。
遠距離戦型のスタイルで、遠距離戦には強いが、格闘能力は低いので、接近戦は苦手。

【デバイス】

■ ツインリボルバー ■

機動六課の魔導師達の戦闘データを基に開発された、直也専用のインテリジョンデバイス。

外見は拳銃型で、ツインの名の通り二丁流。

カラーリングは青基調。

高機能的な情報解析機能や、時空間移動機能も有する。

【使用技】

■ リボルバーショット ■

ツインリボルバーから青色の魔力弾を連射する。

■ マーキングショット ■

敵を狙って飛ぶ追尾弾。

■ピンポイントシューティング■

敵の弱点をピンポイントで撃ち抜く技。

■チャージショット■

魔力を集束させて放つ大型魔力弾攻撃。

■スプレッドガン■

命中した瞬間、周囲の敵にも誘爆する広範囲攻撃。

使用の際は周囲の状況に気を配る必要がある。

【必殺技】

■リボルバーズパニッシャー■

二丁のツインリボルバーから巨大魔力弾を同時に発射する技。

ヘルビーストの設定（前書き）

敵組織の設定です。

幹部は新しいのが登場するたびに追加していきます。

ヘルビーストの設定

【ヘルビースト】

正体不明の首領が支配する、世界征服を企む悪の秘密結社。怪人達を操り、この世界を征服した後、全パラレルワールドの支配も目論む。

50年前に最初に姿を現したが、当時活動していた花咲薫子／キュアフラワーに敗北し、組織を壊滅寸前まで追い込まれていた。なお、世界の支配とリセットという逆の目的を持つゆえ、ダークエンジェルスとは敵対関係にある。

【支配者】

■ヘルビースト大首領■

身長…不明

体重…不明

ヘルビーストの支配者。

直接姿は現さず、声のみで部下に命令を下している。

50年前にキュアフラワーに敗北した過去があり、プリキュアの力に脅威を抱いている。

正体は不明だが、ダークエンジェルスの指導者であるデスリードは、一度だけ直接対峙した事があるとか……

イメージCV…不明

【大幹部】

■ネスト■

身長…230cm

体重…120kg

ヘルビースト第1の大幹部。

黒いジャケットを纏った大男で、好戦的な性格。

物語の最初にプリキュア誕生の阻止を命じられ、ライトニング・コミューンを持つエルフィーを襲うが、エルスとなった御子に敗退。以後、彼女の打倒に執念を燃やしている。

失敗によって首領に怒鳴られる事が多い……

イメージC V…千葉一伸

■バラッド■

身長…210cm

体重…100kg

ヘルビースト第2の大幹部。

武道家の様なコスチュームを身に纏う。

実力はあるのだがヘルビーストの目的たる世界征服には無関心で、ただ強者との戦いだけを求めるバトルマニア。強敵たるエルスの事が気に入っているようだ。

実は雇われ幹部で、元は世界を渡り歩く武道家だったのだが、首領に唆されて幹部となっらしい。

以前ダークエンジェルス五幹部の一人であるジェニスと戦った事があり、バラッドはその戦いについて「心踊るものだった」と言っているが、ジェニスの方は「思い出したくもない」とコメントしている。

イメージC V…小杉十郎太

■ブラック・ルシフェル■

身長…159cm

体重…女子に聞くな

首領が対プリキュア用に生み出した最強の刺客。

外見はキュアエルスに酷似しているが、髪やコスチュームの色が黒基調になっている。その正体は御子のDNAを基にプロジェクトFの技術によって造り出された、御子／エルスのクローン人間である。本来は争い事を好まない性格なのだが、生みの親であり、父親と言える存在である首領に嫌われたくないとの思いから言いなりになっている。ただし、狙うのは御子のみで、他の人を巻き込む事はやりたがらない。

首領曰わく他の幹部とは『出来が違う』らしく、エルスと同等の戦闘能力を持つ他、使用する武器や技、特殊能力も彼女と酷似している。

また、非戦闘形態を持ち、こちらも髪や服が黒基調だが御子と瓜二つで、この状態でも御子と互角に戦える実力を持つ。

どこか寂しげな目をしているようにも見えるが……？

イメージCV…田村ゆかり

■Dr. グロース■

身長…175cm

体重…76kg

ヘルビーストの科学者である初老の男で、マッドサイエンティスト。バイオ工学の技術に秀で、ヘルビーストの怪人達は彼が造り出している。

科学者ゆえに科学力は優秀だが、直接的な戦闘能力は低い。

イメージCV…丸山詠二

第6話：第2の幹部はバトルマニア？（前書き）

作者「お前達、ある意味一大事だ。夏のオーズ劇場版に某暴れん坊将軍が登場してオーズと共闘するらしい。」

彩華「えー！！マジで！？」

直也「マジらしい。」

御子「movie大戦で織田信長で今度は暴れん坊将軍・・・なんだか時代劇絡みが多いね、オーズ。」

一同『確かに・・・』

第6話：第2の幹部はバトルマニア？

ヘルビーストアジトにて・・・

首領「全くお前はどこまでだらしないのだ！！」

ネスト「す、すみません！！今回こそは必ず！！（汗）」

首領「今回はもうバラッドに行ってもらったわ！！」

ネスト「え、でもアイツ強い相手と戦う事しか頭に無いじゃないですか。」

首領「奴は確かに世界征服には興味0な戦闘好きだが、腕は確かだろう。文句があるなら成果を出してから言え！！」

ネスト「は、はい！！（汗）」

~~~~~

・・・直也宅にて、ツインリボルバーが分析したエルス能力データを  
タを見ている直也と御子。

直也「えくと・・・パンチ力7t、キック力15t・・・キック力はライジング・クラッシュ時には50tになって、サンダースピ  
ンキック時には左右合わせて60t・・・キック力が特に高いな。」

『実際戦闘でも蹴り技を多用しているようだ。』

御子「うん。」

直也「でもなんでわざわざデータを見たいなんて？」

御子「まだプリキュアの力について知らない事も多いし、少しでも知っておきたいって思ってる。」

『なるほど。』

直也「必殺技については・・・雷の蹴撃、ライジング・クラッシュ・  
・光の刃、ライトニング・スラッシャー・・・二段蹴りのサン  
ダーピンキック・・・他にもまだありそうだよな。」

『まだデータは完全ではありませんが・・・まだ多くの潜在能力を秘めているものかと。』

データを見終わった後……

御子「この家結構広いね。」

直也「ああ、一人暮らし。でもツインリボルバーがいるし、実質二人暮らしみたいなモンだけど。」

御子「……ん？」

御子がふと目をやると、写真立てが目に入る。

御子「これって……もしかして……?」

直也「ああ、姉さんだよ。」

写真には茶色のロングヘアーの女性が写っている。

御子「直也君……」

直也「心配すんなって。姉さんは生きてるさ、きっと。」

御子「……うん。生きてるよ、絶対。」

直也「ありがとな、心配してくれて。」

~~~~~

……街中を歩いている一人の男。

???「プリキュアとは前から戦ってみたいと思っていた。首領に感謝せねば……」

ブツブツ言いながら歩いているので周りから思いっきり変な目で見られているが、気づいていない……（笑）

???「さて、プリキュアを探さねば。」

その言葉を近くを通りかかった彩華に聞かれた。

彩華「なんかアイツ怪しい……御子に連絡入れとこう。」

~~~~~

ライトニング・コミュニケーションが鳴った。

♪♪♪（ウルトラマンコスモスのオープニング曲をイメージください。）

御子「あ、電話。」

直也「着メロウルトラマンコスモスカよ!?!?」



ピッ!!

御子「もしもし・・・彩華? どうしたの?・・・分かった、今行く!!」

ピッ!!

直也「なんだって?」

御子「街で怪しい人がいて、もしかしたらヘルビーストかもしれな  
いって。行こう!!」

直也「オッケー!!」

~~~~~

御子「彩華!!」

彩華「あ、遅いよ!!」

直也「それで、変なヤツってのは?」

彩華「さっきまで追いかけてただけど、見失っちゃった。」

エルフィー「でもこの近くから邪悪な気配を感じるフィ・・・」

御子達を影から見ている男。

???「まずは小手調べとしよう・・・」

戦闘員を御子達の前に呼び出す。

彩華「何コイツら!?!」

直也「俗に言う戦闘員だろ。」

戦闘員「イーッ!!」

戦闘員が襲ってくる。

御子「ハッ!!」

ドカッ!!

しかし、御子にチョップされ、続けて蹴り飛ばされる。

御子「いくよ・・・」

そしてそのまま駆け出し、戦闘員達を蹴散らしていく。

まず一体にパンチを見舞い、続けて二体に回し蹴り、背後から襲っ
てきた一体を一本背負い。五体いた戦闘員はあっさり撃沈した。

御子「ふう・・・」

直也「つ、強えー・・・某探偵漫画の空手のねーちゃんより強えー・・・(汗)」

彩華「なんの話よ？」

エルフィー「御子ちゃんカッコいいフィー!!」

そこに・・・

???「なかなかやるな・・・」

例の男が現れる。

彩華「あっ!! アイツだよ!! 怪しいヤツ!!」

直也「何だよお前？」

???「ヘルビースト大幹部が一人、バラッドと申す。伝説の戦士プリキュア!! 手合わせ願おうか!!」

エルフィー「変身フィー!!」

コミュニケーションを構える御子。

御子「プリキュア!! ライトニング・トランス!!」

変身完了。

エルス「救済と新生を司りし閃光・・・キュアエルス!!」

バラッド「少年、手出しは無しだぞ。」

直也「へ？俺？」

エルス「1対1って事だね・・・」

バラッド「いくぞ!!」

殴りかかってくるバラッド。

エルス「ッ!!」

寸前で交わしてキックを打ち込む。

バラッド「クッ!!」

一瞬怯むが、すぐ殴り返す。

エルス「ウッ・・・!!」

吹っ飛ばされそうになるが、踏みとどまった。

再び距離を詰め、しばし打ち合うが・・・

エルス「ハッ!!」

エルスが回し蹴りでバラッドを吹っ飛ばす。

バラッド「喰らえ!!」

衝撃波を放ってくる。

エルス「エルス・ライトニングスラッシュ!!」

ライトニング・スラッシュで相殺。

エルス「プリキュア!! ライジング・クラッシュ!!」

ライジング・クラッシュを放つが、バラッドもキックを放ち、互いに吹っ飛ばされた。

エルス「きゃ!!」

バラッド「グッ!!」

起き上がる両者。

バラッド「さすがは伝説の戦士・・・大した物だな。」

エルス「あなたも・・・ね。」

バラッド「これ程の相手はあのジェニスとかいうダークエンジェルスの小娘以来だ・・・貴様、名前は？」

エルス「キュアエルス、光明寺御子。」

バラッド「キュアエルス・・・いい名だ。気に入ったぞ。」

エルス「ど、どうも。」

バラッド「今回はここまでだ。貴様とはまた戦いたいものだ。さらば!!」

立ち去るバラッド。

エルフィー「大丈夫だったフィ？」

エルス「うん、大丈夫。」

直也「だといけれど・・・アイツバトルマニアみたいだし、また来るぜ、きっと。」

彩華「なんか面倒なのに気に入られちゃったみたいだね・・・」
エルス「あ、あはは・・・（苦笑）」

第6話：第2の幹部はバトルマニア？（後書き）

次回の内容は未定です。

第7話：エルフィーの悩み（前書き）

更新が遅れてすみません・・・

今回の話はターザンさんの『プリキュアオールスターズ×仮面ライダー×デイクイド×ウルトラ8兄弟second the finale episode』での戦いの後日談という構想で書いております。

そちらの方を読んでいないと分かり難い部分がありますのでご注意ください。

第7話：エルフィーの悩み

御子が『プリキュアと仮面ライダーとウルトラマンの世界』での戦いから戻ってきて数日後の休日の事・・・

直也「え？エルフィーが？」

御子「うん・・・あの戦いから戻ってきてからずっと、元気がなくて・・・」

直也「気に・・・してるみたいだったしな・・・お前がアッチで一回モネラにやられた事、相当ショックだったみたいだ。」

御子「エルフィー・・・」

~~~~~

・・・海辺にいるエルフィー。気分転換に散歩してたようだが・・・

彩華「あれ？エルフィー？」

通りかかった彩華が声を掛ける。

エルフィー「彩華ちゃん・・・」

彩華「どしたの一人で？散歩？」

エルフィー「フィ・・・」

彩華「・・・御子が心配してたよ。最近元氣無いつて。」

エルフィー「・・・御子ちゃんの足手まといになってる気がして・・・」

彩華「え？」

エルフィー「御子ちゃんはいつもエルフィーを守ってくれるフィ。強くて優しくて・・・」

彩華「大好きなんだね、御子の事。」

エルフィー「でもエルフィーは・・・御子ちゃんに何もしてあげられないフィ・・・あの時だって、エルフィーが弱かったせいで・・・これ以上御子ちゃんの足手まといになりたくないフィ・・・」

彩華「・・・でもさ、御子があんたの事足手まといなんて、一回でも言ったりした？」

首を横に振るエルフィー。

彩華「その時に御子があんただけでも逃がそうとしたのは、あんたが光太郎さん達を見つけてくれるって信じてたから、それに何より・・・あんたを守りたかったからだと思うよ。あんたも、御子を助けたかったんでしょ？」

エルフィー「・・・」

彩華「あんたにとって御子が大切な人な様に、御子にとってもあんたは大切な子なんだよ。そうでなかったら、自分を投げ打ってまで助けようとしないうよ。」

エルフィー「彩華ちゃん・・・でも・・・ッ！！！！邪悪な気配フイ！！！」

彩華「え！？」

後ろの方を見てみると、少し離れた所でネストがコソコソと港の方に入っていくのが見えた。

彩華「あそこっでもう使われてないトコだね・・・いったい何を・・・？とにかく御子に連絡を・・・」

エルフィー「彩華ちゃん！！エルフィーが様子を見てくるフィー！！！」

彩華「え！？な、何言ってるのよ！！そんな無茶な事・・・！！」  
エルフィー「でもエルフィーには・・・こんな事くらいしかできないフィー・・・ゴメン！！」

そのままネストを追いかけて行ってしまった。

彩華「ま、待ってよ！！」

すぐ追いかけるが、見失ってしまう。

彩華「ど、どうしよう・・・とにかく御子に知らせないと！！」

~~~~~

ネストを追いかけたエルフィー。ネストが廃工場に入っていくのを

発見し、工場に忍び込んだ。

エルフィー「こんなトコで何を・・・ッ!!」

物陰から覗いてみると、武器やら何やら多数溜め込んでいた。その側でネストが一人ブツブツ言っている。

ネスト「最近俺の立場が悪いのもみんなプリキュアのせいだ!!だが奴もまさか俺がこんなトコに武器を溜め込んでるなんて気づくまい・・・不意をついて一斉攻撃してやる・・・!!」

エルフィー「た、大変フィ・・・すぐ御子ちゃんに・・・カタンッ

うっかり音を立ててしまう。

ネスト「誰だ!!」

すぐ隠れ直すエルフィー。

ネスト「まさか誰か忍び込んでやがるのか・・・?」
辺りを探し出すネスト。

エルフィー「(フィー!!)」

~~~~~

彩華の連絡を受けて廃港まできた御子と直也。

御子「彩華!!エルフィーは!？」

彩華「まだ見つからなくて・・・」

直也「幹部の後を付けるなんて・・・なんて無茶を・・・!!」

彩華「あの子言ってた・・・これ以上御子の足を引っ張りたくないって・・・」

御子「そ、そんな・・・エルフィー!!」

駆け出していく御子。

直也「あっ!!光明寺!!」

彩華「直也!!なんとかエルフィーがいるトコ調べられない!？」

直也「あ、ああ!!ツインリボルバー!!探知頼む!!」

『了解・・・探知完了しました。ここの一番奥の廃工場から反応が。ですが、近くに闇の力の反応も・・・!!』



直也「な、マズい!!」

~~~~~

エルフィーを探す御子だが、なかなか見つからない。

御子「エルフィー・・・いったいどこに・・・」

その時、ライトニング・コミュニケーションが光を放つ。

御子「これは・・・」

奥の廃工場の方にコミュニケーションを向けると、より光が強まる。

御子「もしかして・・・あそこに!？」

~~~~~

逃げ隠れていたエルフィーだったが、見つかってしまう。

ネスト「見つけたぞ!!」

エルフィー「フィィ!!」

ネスト「まさか後を付けてきてやがったとはな・・・見られたからには・・・!!」

拳を振り上げるネスト。

ネスト「消し飛べ!!」

エルフィー「フィィ!!」

もう駄目かと思うエルフィーだったが、その拳が振り下ろされる事はなかった。

ネスト「なっ・・・!!?」

エルフィー「・・・え?」

エルフィーが見上げると・・・

エルフィー「エ、エルス・・・!!」

エルスがネストの拳を受け止めていた。

エルス「はあ!!」

ネストを押し出すと、エルフィーの方を向く。

エルフィー「え、えっと・・・」

戸惑うエルフィーだが、次の瞬間、エルスに抱きしめられる。

エルス「よかった・・・無事で・・・」

エルフィー「御子ちゃん・・・また・・・迷惑掛けちゃったファイ・・・」

エルス「・・・」

エルフィー「あの時、エルフィーが弱いせいで御子ちゃんを危ない目に遭わせちゃって・・・なんとか御子ちゃんの役に立ちたかったファイ・・・」

エルス「エルフィー・・・」

ネスト「ハッ！！馬鹿馬鹿しい！！とんだ足手まといがいてお前も大変だよなく、プリキュアさんよお！！」

エルス「・・・違う！！」

ネスト「あ？」

ネストを睨み付けるエルス。

エルス「エルフィーは足手まといなんかじゃない！！この子は・・・エルフィーは・・・私の大切な友達だよ！！」

エルフィー「お、御子ちゃん・・・」

ネスト「知った事か！！まとめて消え去れ！！」

エネルギー弾を放ってくるが、エルスは片手で弾く。

ネスト「何！？」

エルス「前にも言った筈だよ。私の友達に・・・手出しはさせないって！！」

ネスト「グヌヌ・・・！！おのれ！！」

殴りかかってくるネストだが、エルスは跳躍して回避すると、エルフィーを安全な場所に降ろす。

エルス「ここに隠れてて。」

エルフィー「う、うん！！」

ネストに向かっていくエルス。しばし格闘する両者だが・・・

エルス「ハッ！！」

ネスト「うお！？」

回し蹴りでネストを吹っ飛ばす。

ネスト「クソッ!!」

エネルギー弾を連射してくるが、エルスは全て蹴り返した。  
ネスト「何!？」

エルス「これで・・・決める!!」

必殺技の体制に入る。

エルス「プリキュア!! ライトニング・スラッシャー!!」

ネスト「マ、マズい!!」

ライトニング・スラッシャーが命中したかに見えたが、爆発の後に  
ネストの姿は無かった。

エルフィー「や、やったの・・・?」

エルス「ううん。手応え無かった・・・逃げられたみたい。」

ちようどその時、直也と彩華が入ってきた。

直也「2人共!! 大丈夫だったか!？」

エルス「うん。大丈夫。」

彩華「つていうか・・・どうなってんの? ここ?」

エルフィーは自分が聞いた話を3人に話した。

彩華「アイツそんな事企んでんだ・・・危うく大惨事になるトコ  
だったね。」

エルフィー「ゴメンフィ御子ちゃん・・・また迷惑掛けちゃって・・・

・「そんな事ないよ。」フィ?

エルス「もしエルフィーがここを見つけてくれなかったら、大変な  
事になってたかもしれない。そうならなかったのは、エルフィーの  
おかげだよ。」

エルフィー「御子ちゃん・・・」

エルス「足手まといなんかじゃないよ。あなたは私の友達で・・・  
大切なパートナーなんだから。私こそゴメンね・・・あなたの不安  
に気づいてあげられなくて・・・」

エルフィー「お、御子ちゃん!!」

目を潤ませるエルフィーを抱きしめるエルス。

彩華「やれやれ・・・これで一件落着、かな?」

直也「ああ！でもエルフィー、今回はお手柄だったけど、今度は  
らはあまり無茶な事はするなよ？」  
エルフィー「フィー！！」

~~~~~

・・・一方、ヘルビーストアジトでは・・・
首領「ええい不甲斐ない幹部共め！！・・・だが。」

暗がりの中、首領らしき人物が目目の前のカプセルを見つめる。

首領「間もなく完成する・・・『Fの遺産』の技術を基に誕生させ
た・・・最強の刺客が！！」

カプセル内には、少女のシルエットが浮かんでいた・・・

~~~~~

#### ・次回予告・

プリキュア打倒の為の刺客を生み出そうとする首領。果たして彼の  
狙いは・・・？

そして姿を現す最強の刺客、『ブラック・ルシフェル』！！その驚  
くべき姿とは・・・！？

次回、『最強の敵、現る！？』

## 第8話：最強の敵、現る！？

・・・ヘルビーストアジトにて、一人の少女が目を開ける。

??? 「・・・私は・・・」

首領「完成したか・・・」

??? 「あなたは・・・？」

首領「お前を生み出したのはこの私だ。いわばお前の父親・・・と言ったところか。」

??? 「お父・・・さん・・・」

首領「お前には重要な使命がある。私の計画を邪魔する愚か者を倒すという使命がな・・・」

??? 「・・・」

~~~~~

・・・ある夜、自宅で考え事をしている直也。

直也「姉さん・・・いたい今はどこに・・・」

『マスター？』

直也「ダークエンジェルスの中は世界への憎しみに囚われ、世界をリセットしようとしてるだろ？ 姉さんが失踪したの、父さんが死んだのと同時期だし・・・もしかしたら姉さんも、憎しみに囚われてるんじゃないかと思うと・・・」

『マスター・・・』

~~~~~

・・・一方、街の展望台にいる御子とエルフィー。

エルフィー「綺麗なお星様フィー。」

御子「梅雨時のこの時期にこれだけ綺麗に見えるのは珍しいんだよ。」

エルフィー「あ、でも御子ちゃんの方がもっと綺麗フィー！！」

御子「あ、あはは・・・ありがとう。（苦笑）」

しばらく星を見ていた2人だが、近くで何者かが様子を伺っていた事には気づいていなかった・・・

???? 「・・・あの子が私の・・・オリジナル・・・」

~~~~~

・・・一方直也は、時空防衛局からある連絡を受けていた。

直也「はい・・・はい・・・分かりました。ありがとうございます。」

「
ピッ!!」

『何の連絡ですか?』

直也「あまり・・・良くない知らせだよ。防衛局のデータベースに何者かがハッキング。『ある計画』のデータを不正にコピーしてた事が分かったらしいんだ。」

『何ですって!? いったい何の・・・』

直也「・・・『プロジェクトF』・・・だそうだ。」

~~~~~

・・・一方御子達は帰路についていたのだが・・・

御子「ッ!!」

エルフィー「御子ちゃん?」

御子「気をつけて、殺気を感じる・・・」

静かに目を閉じ、気配を感じ取ろうとする御子。そして・・・

御子「!!」

気配を感じて飛び退くと、次の瞬間、御子が立っていた場所に誰かが跳び蹴りを見舞った。

???? 「さすが・・・だね。」

御子「誰?」

振り返った瞬間、御子とエルフィーの表情は驚愕に染まった。

エルフィー「え、ええ!」

御子「そ、そんな・・・わ、私・・・!？」

驚くのも無理ない。襲撃者の姿は、御子に瓜二つだったのだから・

・  
緑色の髪は漆黒に染まり、服も黒を基調とした物だが、その顔はまさしく御子の物・・・

御子「あ、あなたは・・・いったい・・・?」

???「私はもう一人のあなた・・・それだけだよ。あなたに恨みはないけど、お父さんの命令に逆らうワケにはいかない・・・相手してもらおうよ。」

御子「もう一人の私・・・?どういう事・・・?」

???「後あなた、危ないから離れてて。」

エルフィー「エ、エルフィーの事フィ？」

???「そう。」

御子「・・・エルフィー、下がってて。」

エルフィー「わ、分かったフィ!!」

御子の肩から離れるエルフィー。

???「じゃあ・・・いくよ。」

御子「ッ!!」

殴りかかってきた少女の攻撃を交わし、蹴りを見舞うが、少女もガードし、反撃してくる。

御子「クッ!!」

蹴りを入れられよろける御子だが、相手の腕を掴み、一本背負いを決める。

???「ウッ!!」

だがすぐ起き上がり、ジャンプしてから空中回し蹴りを放ってくるが、御子は回避。

御子「この子・・・強い!!」

距離を詰めて互いに蹴りを打ち合い、そのまま格闘を繰り広げる両者だが、どちらも全く引けを取らない。

御子「やあ!!」

???「はあっ!!」

少女のパンチを捌きつつ連続キックで牽制するが、少女も上手く捌きつつ反撃してくる。

???「ハッ!!」

御子「うっ!!」

少女のパンチを受ける御子だが、かろうじて踏みとどまると、蹴りを打ち込む。

???「クッ・・・これで・・・!!」

足払いを掛けようとするが、ジャンプした御子に交わされ、隙がでる。

御子「はあっ!!」

御子のキックが少女に当たるが、耐えた少女も蹴り返す。

御子「クッ・・・!!はああああ!!」

???「きゃっ!!」

御子の回し蹴りで少し跳ね飛ばされる少女。

???「クッ・・・さすがだね・・・なら・・・本気で行かせて貰

うよ・・・」

そう言う少女は闇に包まれ、姿を変えた。

御子「なっ!?キュ、キュアエルス・・・!」

その姿はエルスに瓜二つ・・・だがその髪とコスチュームはやはり黒く染まっている。

???「この姿こそ『ブラック・ルシフェル』・・・今までの怪人と同じと思わないほうがいいよ。」

御子「ブラック・ルシフェル・・・!」

コミュニケーションを構える御子。

御子「プリキュア!!ライトニング・トランス!!」

周囲の暗闇を眩い光が照らし、光の中からキュアエルスが姿を現す。ルシフェル「ここからが本番・・・いくよ。」

エルス「・・・」

両者睨み合ったまま、しばらく動かない。だが遂に両者同時に動き、



拳をぶつけ合う。

エルス「はああああああ!!」

ルシフェル「やああああああ!!」

互いに打撃を打ち合うが、決着が着かず一度距離を取る。

ルシフェル「ルシフェル・ヘルスラッシュ!!」

右足に闇のオーラを集め、回し蹴りと共に刃として放ってくる。

エルス「なっ!？」

エルスもライトニングスラッシュで相殺するが・・・

エルス「今は・・・ライトニングスラッシュ!？」

エルフィー「わ、技までそっくりファイ!!」

ルシフェル「ルシフェル・ロッド!!」

ライトニング・ロッドに酷似した黒いロッドを召喚し、エネルギー弾を撃ってくるが、エルスもロッドを召喚し、エネルギー弾で相殺。ルシフェル「これなら!!」

ロッドをソードモードに変えて切りかかってくる。

エルス「クッ!!」

エルスもロッドをソードモードにし、それを受け止める。

エルス「くう・・・!!」

ルシフェル「うう・・・!!」

鏢迫り合いになるが、力も互角なのか互いに押し切れず、距離を取る。

エルス「(技も武器も同じ、パワーもスピードも同じ・・・この子はいったい・・・?)」

ルシフェル「いくよ・・・!!」

エルス「!!」

ロッドに闇の力を集めるルシフェル。それを見たエルスもロッドに光エネルギーを集める。そして、同時に技を放つ。

エルス「プリキュア!!ライトニング・スラッシャー!!」

ルシフェル「プリキュア・・・ダークネス・スラッシャー!!」

2人の技がぶつかり合い、凄まじい衝撃が走るが、両者踏みとどま

る。

エルフィー「す、凄いフィ・・・エルスと互角なんて!!」

ルシフェル「さすが・・・オリジナルだね。」

エルス「オリジナル・・・?」

ルシフェル「・・・今日はここまで。近い内に、また会おう。」

瞬間移動で姿を消すルシフェル。

エルス「あの子・・・」

エルフィー「エルス、大丈夫フィ?」

エルス「うん。でも・・・」

エルフィー「?」

エルス「あの子の目、少し寂しげだったような・・・」

エルフィー「寂しげ・・・?」

エルス「いったい・・・何者なの・・・?」

~~~~~

・次回予告・

ルシフェルの正体について考える御子。

一方直也は、ルシフェル誕生にある『禁断の計画』の影を見る。

果たして彼女の正体は・・・

次回、『ルシフェルの秘密』

第9話：ルシフェルの秘密（前書き）

ヘルビーストの設定にバラッド、ブラック・ルシフェルの設定を追加しました。

第9話…ルシフェルの秘密

自室でエルフィーと話している御子。議題は当然、ブラック・ルシフェル・・・である。

御子「どうして私と同じ姿・・・」

エルフィー「分かんないフィ・・・それに・・・なんとなく気配も御子ちゃんと似てたフィ。」

御子「気配も？」

エルフィー「だから近づいてきても気づかなかったフィ・・・」

御子「『もう一人の私』・・・そう言ってた。どういう事なんだろう・・・？」

御子「（それに・・・なんとなくだけど、どこか寂しげだったような・・・あの子はいったい・・・）」

ルシフェルの話は直也にも伝わっているのだが・・・

『マスター・・・これはやはり・・・』

直也「ああ・・・多分間違いない。ヘルビーストの奴ら、あの『禁断の計画』を・・・!!」

『データを盗んだのはこれに利用する為だった・・・という事ですか・・・』

直也「とにかくこの事を光明寺に知らせないと!!行くぞ!!」

・・・一方ヘルビーストアジト。

首領「なかなかの物だったぞ。さすがに他の幹部共とは出来が違う・・・」

ルシフェル「・・・ねえ、どうしても・・・やらないと駄目なの？」
首領「気が引ける・・・とでも？」

直也「ああ。ちょっと長くなるけど、聞いてくれ。」

~~~~~

直也「俺がいた世界に存在したある女性が始めた禁断の計画、『プロジェクトF』・・・それが関係してると思われるんだ。」

御子「プロジェクトF・・・？」

直也「正式名称、プロジェクトFate・・・プレシア・テストロッサが始めた、使い魔を超えた究極の人造生命の創造と死者蘇生の研究・・・」

和子「死者蘇生ですって？」

直也「蘇生と言っても、死んだ人間そのものを蘇らせるわけじゃないんです。死んだ人間のクローンを造り、死者の生前の記憶をコピーさせる・・・元はプレシア・テストロッサが、事故死した娘を再生する為に始めたんですが・・・」

正「そんな計画が・・・」

直也「でも・・・例え記憶をコピーしても、死んだ人間そのものを完全に再現するなんて、ほぼ不可能なんです。つまり記憶を受け継ぎながらも、異なる人格を持った新たな存在として生まれてくるんです。ですが・・・結果的にその事が数々の悲劇を引き起こしてきてしまった・・・」

彩華「そんな・・・」

直也「そして先日・・・その計画のデータが何者かによって、防衛局のコンピュータから盗み出されていた事が分かったんです。おそらく犯人はヘルビースト・・・」

御子「じゃ、じゃあ・・・あの子の正体って・・・まさか!？」

直也「・・・プロジェクトFの技術で光明寺のクローンを造り、闇の力を植え付けた・・・そういう事だと思う。」

一同『!!!!!!』

直也「他者を再現するプロジェクトFの技術を利用すれば・・・強力な戦士のコピーを造り出す事も、十分可能だろうな・・・」

御子「……………（あの子の言葉……………」

『……………  
私はもう一人のあなた……………それだけだよ。』

御子「あの言葉……………そういう事だったんだ……………」

彩華「でもなんでそんな事……………やっぱり、御子を倒す為？」

『でしょうね……………プリキュアに対抗する為にはそれと同等の力を持った戦士を造ればいい、そう考えたのでしょうか。』

御子「……………でも、あの子はそれをどう思ってるのかな……………」

彩華「え？」

正「どういう事だ？」

御子「あの子、確かに襲ってきたけど……………こんな事を言ってたの。」

『……………  
『あなたに恨みは無いけど、お父さんの命令には逆らえない……………』

和子「お父さんっていうのは……………彼女を生み出した人の事かしら？」

御子「あの子、本当はあんな事したくないんじゃないかって気がするの……………」

直也「うーん……………」

エルフィー「そういえば……………御子ちゃんと戦う前にエルフィーに、危ないから離れてろって言ったフィ。」

彩華「ルシフェルがエルフィーを気遣ったって事？」

エルフィー「フィー。もしもあの時の相手がネストだったら、エル

フィーの事も一緒に襲ってたと思うフィ。」

彩華「確かに・・・」

御子「『お父さんの命令には逆らえない』・・・多分あの子、親に嫌われたくなくて、言いなりになってるんだと思う。」

正「嫌われたくない・・・か。」

直也「親の愛を受けたいから、命令されるがままに光明寺を狙ってるワケか・・・確かに十分考えられるな。そういう話は珍しくないし、生まれたばかりで他に心の寄りどころもないんだろうしな・・・」

彩華「で、でも・・・だからって、誰かを傷つけるのは良くないよ。」

御子「うん・・・でも、なんとか助けてあげられないかな・・・あの子の事・・・」

~~~~~

・・・一方ルシフェル。

ルシフェル「間違ってるって、分かってるつもりだけど・・・でもやっぱり、私に命を与えてくれた人を裏切れない・・・お父さんに、嫌われたくない・・・」

ルシフェル「ゴメンね・・・お姉ちゃん・・・」

番外編：妄想・i s・販促玩具

彩華「思ったんだけどさ、原作のプリキュアって販促玩具とか色々出してるよね？」

直也「ああ、確かに。女の子向けアニメだし。」

彩華「じゃあさ、もしこの小説が現実世界でアニメになってたりしたら、どんなのが出るかな？」

御子「うーん、どうだろう？」

彩華「ここはいつちよ妄想タイムと参りましょう!!！」

~~~~~

御子「まずは・・・なりきり玩具としてはやっぱり変身アイテムのライトニング・コミュニケーションかな？」

彩華「あとは武器のライトニング・ロッドとか？」

エルフィー「なりきりコスチュームもあるフィー!!！」

彩華「あー、キャラリートキッズだっけ？」

御子「でもプリキュアのおもちゃだけじゃないと思うよ。」

エルフィー「フィー？」

御子「エルフィーのお喋りぬいぐるみとかも出るんじゃない？」

エルフィー「エルフィーのフィー？」

彩華「あー、そういうのあるよね。」

直也「あるある。・・・で、俺のは出んの？」

御子「出ると思うよ。」

彩華「・・・え、えーと・・・お二人さん？ちょっと、言いにくいんだけど・・・（汗）」

直也「ん？」

御子「彩華？」

彩華「リリカルなのはって、子供向けのおもちゃは出してないんだよ・・・直也はリリなの系列だから・・・（汗）」

直也「ガーン!!」

エルフィー「直也君ショックみたいファイ……(汗)」

御子「あ、彩華……(汗)」

彩華「ゴ、ゴメン……で、でも!! f i g m aとかでなら出てるから!!きつと!!」(汗)」

直也「ちくしょー……(泣)」

御子「な、直也君泣かないで。」

直也「こ、光明寺……／＼／＼」

エルフィー「?直也君顔が赤いファイ。」

彩華「……(汗)そ、それはともかく、フィギュアだったらキユアドールとかフィギュアーツとか出てるよね。」

直也「!!そうか!!フィギュアーツならチャンスが!!」

御子「た、立ち直り早いね……」

~~~~~

作者「……で?なんでお前がここにいるんだよ?」

ネスト「最近のフィギュアーツは敵キャラとかも出てるだろ!!もし現実でこの小説が商品展開されたら俺は出ると思うか!」

作者「お前が出るワケないだろ。敵キャラのアーツ化はイースとかダークプリキュアみたいによっぽど人気があるのだけじゃないか。出てもルシフェルくらいだろ。」

ネスト「オiiiiiiii!」

怪人名鑑・その1（前書き）

これまで登場した怪人達の設定です。

怪人名鑑・その1

■カマキリ怪人■

身長…196cm

体重…79kg

登場話…プロローグ

カマキリ型の怪人で、オーズのカマキリヤミーに似ている。

武器は両手の鋭い鎌。

街で暴れていたところを駆けつけたエルスのライジング・クラッシュで倒された。

■クマ怪人■

身長…209cm

体重…100kg

登場話…第1話

クマ型の怪人で、エルスが初めて戦った相手。

これといった特殊能力は無く、武器は両手の鋭い爪と怪力のみ。持ち前の怪力で敵をねじ伏せる。

ネストに引き連れられてエルフィーを狙ったが、初変身を遂げたエルスのライジング・クラッシュによって倒された。

■鎧怪人■

身長…199cm

体重…94kg

登場話…第2話

西洋の甲冑のような姿をした怪人。

長剣を武器とし、剣術戦法を駆使する。

エルスとの戦いで不利になったネストにより召喚されてエルスを襲うが、剣術戦で破れた後ライトニング・スラッシャーで倒された。

■狼怪人■

身長…185cm

体重…70kg

登場話…第3話

狼型の怪人。

素早い動きで敵を翻弄し、鋭い爪や牙で引き裂こうとする。

光明寺邸の庭に現れてエルスと戦うが、格闘の末にライジング・クラッシュで倒された。

■コウモリ怪人■

身長…197cm

体重…86kg

登場話…第3話

コウモリ型の怪人で、ショッカーの蝙蝠男と似ている。

超音波を操るらしい。

夜の街で直也と戦っていたが、リボルバーズパニッシャーで倒された。

■エビ怪人■

身長…195cm

体重…93kg

登場話…第4話

エビ型の怪人で、Wのアノマロカリス・ドーパントと似ている。

武器は特に確認されていない。

ネストの指示で街で暴れていたが、駆けつけた直也に圧倒され、リボルバーズパニッシャーで倒された。

■トラ怪人■

身長…206cm

体重…97kg

登場話…第5話

トラ型の怪人で、Wのスミロドン・ドーパントと似ている。

狼怪人以上のスピードを持ち、鋭い爪で相手を引き裂く。

バッタ怪人と共に街で暴れていたところを直也と交戦。スピードで翻弄しようとするも通じず、リボルバーズパニッシャーで倒された。

■バッタ怪人■

身長…200cm

体重…90kg

登場話…第5話

バッタ型の怪人で、オーズのバッタヤミーと似ている。

武器は持たず格闘戦のみだが、バッタだけに脚力が高い。

トラ怪人と共に街で暴れていたところをエルスと交戦となり、格闘を繰り広げるもサンダースピンキックで倒された。

特別編：重大発表（前書き）

本筋の次話制作が行き詰まってる中、また新たなアイデアを思いついてしまった・・・

**特別編
.. 重大発表**

彩華「何の用？作者さん？」

作者「実はな・・・第2のオリジナルプリキュアを作ろうかというアイデアを思いついてしまったんだが・・・」

彩華「第2の？ エルスに続いて？」

作者「ああ・・・エルスがオリジナルキャラ中最高傑作と言える程完成度が高かったんで他に新しく作る予定は今までなかったんだが、ふと思いついてな。」

彩華「へへ。で、どんな子に変身するの？」

作者「お前。」

彩華「……へ？ 今なんて？」

作者「だからお前だよ……夢野彩華!!!」

彩華「……え、ええええええええええええええええ！？」

作者「方法のヒントは『新たな日常と新たな戦い』の方の前の話で回収したコアメダルだ。」

彩華「ウソ……あたしなっちゃうの!? プリキュア……」

作者「第2のオリジナルプリキュア、設定ができ次第公開したいと思っています!!」

キュアフレイムの設定・その1（前書き）

第2のオリキュア設定、その1です。

キュアフレイムの設定・その1

■キュアフレイム■

【概要】

夢野彩華がメダルキュアとプリキュアメダルによって変身するプリキュアで、人工的なシステムによる変身としてはキュアディリー、キュアウイングについて三度目の成功例である。
モチーフは仮面ライダーオーズ・タジャドルコンボ。

【容姿】

髪はリリカルなのはのスバル・ナカジマを赤くしたようなショートヘアーで、ハート型のイヤリングをしている。
コスチュームはキュアルージュに似ているがカラーリングはオレンジ貴重から赤貴重になり、袖やアームカバーがタジャドルコンボの装飾に似た形状をしている。
胸の蝶のエンブレムはエルスと同じような深紅のリボンとハート型ブローチに変わり、右手首にメダルキュアを装着している。また、飛行時にはタジャドルコンボと酷似したクジャクウイングを展開する。

【変身アイテム】

■メダルキュアー■

プリキュアハウスのキュアホワイトが開発した、キュアフレイムの変身アイテム。

ブレスレット型で、彩華の右手首に装着される。
プリキュアメダルを装填して読み込ませる事で変身する。また、読み込ませ時にはオーズと同型のオースキャナーを使用する。

■プリキュアメダル■

ホワイトが、アंक・リセッターから回収されたクジャクメダルを改造して造り上げた特殊なコアメダルで、カラーは桃色。

グリードを生み出すような悪影響は完全に取り除かれている。

【変身バンク】

1…右手で持ったプリキュアメダルをオーズの伊達明のように指で上に弾き、左手でキャッチする。

2…メダルをメダルキュアに装填し、左手にオースキャナーを持つ。

3…オースキャナーでメダルキュアをスキャンし、「プリキュア！！スキャニング・トランス！！」と発声。

4…光に包まれる。

5…光の中、身体が炎に包まれ、コスチュームが形成される。

6…両腕、両脚が炎に包まれ、アームカバー、ブーツ、ソックスが形成される。

7…髪が変化し、イヤリング、胸のリボンが装着される。

8…着地し、名乗り口上を言う。

「邪悪を払いし紅蓮の翼！！キュアフレイム！！」

キュアフレイムの設定・その1（後書き）

能力や技は次以降紹介していきます。

キュアフレイムの設定・その2

【キュアフレイム・ステータス】

身長…160cm

体重…女子に体重を聞くな

パンチ力…10t

キック力…13t

ジャンプ力…ひと跳び105m

走力…100mを2.5秒

飛行速度…マッハ3

【戦闘スタイル】

基本的には力押しの肉弾戦だが、飛行や火炎弾、火炎放射、羽手裏剣など、オーズ・タジャドルコンボと似た戦闘スタイルも駆使する。また、視力・空間認識能力にも優れている。

【基本能力】

■腕力■

強靱な腕力を持ち、敵を叩き伏せるようなパワー攻撃を得意とする。

■脚力■

105m上空までジャンプできるが、飛行する事が多いので蹴り技に生かされる事が多い。

エルスには若干劣るが、それでも威力は高い。

■防御力■

打たれ強く、ダメージをもろともせず突っ込んでいく。

■格闘能力■

基本的に力押しでガンガン攻めるスタイル。
彩華には格闘の経験は無いが、ずっとエルスの戦いを見てきた為、
格闘技もそれなりにこなせる。

キュアフレイムの設定・その3

【通常技】

■パンチ■

約10tの威力を持つ。

接近戦でひたすら連打して相手に反撃の隙を与えない。

■キック■

約13tの威力を持つ。

地上での攻撃のほか、上空からの急降下キックも多用する。

■投げ技■

持ち前のパワーを生かしての豪快な投げ技を駆使する。
プロレス技もよく使うらしい。

【特殊技】

■火炎弾■

火炎弾を形成して敵に向けて放つ。
また、連射も可能。

■火炎放射■

超高温の炎を放射する。
小さな池程度なら一瞬にして蒸発させられる火力を持つ。

■飛行能力■

オーズ・タジャドルコンボと酷似したクジャクウイングを展開し、飛行を行う。
マッハ3のスピードで敵を翻弄する。

■フェザーアロー■

タジャドルコンボ変身時に出現する物と酷似したクジャクの羽を展開し、敵に矢のようにして放つ。

■スマッシュパンチ■

全身の力を込めて放つ必殺パンチ。

威力は約20t

■スマッシュキック■

全身の力を込めて放つ必殺回し蹴り。

威力は約25t ■

【必殺技】

■プリキュア・フレイムレイン■

上空まで飛翔し、無数の火炎弾を地上の敵に向けて落とす。敵の数が多い時に有効だが攻撃範囲が広いので、使用の際には周囲の状況に気を配る必要がある。

■プリキュア・プロミネンスブレイク■

上空に飛翔後両足に炎を纏わせ、敵にドロップキックを見舞う。威力は約50t。

元ネタはタジャドルコンボのプロミネンスドロップ。

■プリキュア・バーニングフェニックス■

飛翔後全身に炎を纏い、そのまま敵に向かって突撃、粉碎する技。元ネタはタジャドルコンボのマグナブレイズ。

各必殺技はオーズ同様スキヤニングチャージから発動する。

第9・5話：第2のプリキュア登場？

『夢野探偵事務所』と看板に書かれたここは彩華の自宅である。

実は彼女の父親は探偵業を営んでおり、家が事務所になっているのだ。

・・・余談だが、父の影響か彩華はよく探偵を気取っており、本人曰わく近々『美少女探偵あやかちゃん』として颯爽とデビューする予定・・・らしい。

そして今、彩華は自室にて直也にある事を相談している。

彩華「・・・ねえ、あたしもなんとか戦える方法って・・・無いか？」

直也「え？」

彩華「いつも御子やあんたにばかり負担を描けちゃってるし・・・それに、ルシフェルの事だってあるし、これからもっと大変になってくるでしょ？」

直也「まあ確かに、楽な仕事じゃないけどな・・・」

彩華「だから、少しでも負担を減らしてあげたいって思って・・・魔導師って、あたしにはなれないかな？」

直也「そうか・・・」

『しかし・・・残念ながらあなたには魔力資質はないようです。』
ツインリボルバーが言う。

彩華「そっか・・・」

しばらく静まり返っていたが・・・

直也「・・・一つだけ・・・可能性があるかもしれない。」

彩華「え？」

直也「まだ確定とは言えないけどな。でも上手く適合できれば・・・」

彩華「戦えるの？あたしも。」

直也「・・・でも、本当にいいのか？戦うって事は、今まで以上に

お前も危険な目に遭うって事だぞ？」

彩華「・・・だからこそ、だよ。これ以上、あんたや御子にだけ重荷を背負わせたくないもん。」

直也「・・・分かった。話してみる。」

~~~~~

・・・こことは別の世界で、直也から連絡を受けているのは・・・  
??? 「なるほどな・・・」

『それで、どうなんですか？作者さん？』

連絡を受けているのは別世界にあるプリキュアハウスの管理者にしてこの小説の作者、夢原信者である。

作者「ああ、仮面ライダーオーズのデータを基にホワイトが開発した新システムがある。お前が送ってきたデータから判断して、適合率的にも問題ないと思う。」

『そうですか。じゃあ・・・』

作者「ああ。明日にでもそっちに持っていく。」

ピッ！！

~~~~~

・・・翌日、自宅で作者と会う直也。

直也「これが・・・」

渡されたケースの中にはブレスレットのような物と一枚のメダル、仮面ライダーオーズと同型のオースキャナーが入っている。

作者「そう。オーズのデータを解析して開発された人工プリキュアシステム。扱い易さを重視して、メダルチェンジシステムはオミットしてあるがな。それで、夢野彩華は？」

直也「もうそろそろ来ると思うけど・・・」

そこに彩華がやってくる。

彩華「お待たせ！！」

直也「お、来たか。」

彩華「ん？どちら様？」

作者「作者の夢原信者だ。」

彩華「うえええ！？作者さん登場ですか！？」

直也「それより・・・これ。」

ケースを受け取る彩華。

彩華「これは・・・」

作者「そいつを使えばお前もプリキュアになれる。人工だけどな。」

彩華「プ、プリキュア！？あたしが！？」

作者「その通りだ。」

彩華「・・・（御子と同じプリキュアの力・・・それが、あたしに・・・）」

彩華「・・・やるよ、あたし。これからはもう、あの子だけに重荷は背負わせない！！」

直也「夢野・・・」

作者「よく言った。受け取りな、お前の力！！」

彩華「はい！！」

ブレスレットを着けてみる彩華。

彩華「変身してみてもいいですか？」

作者「ああ。やり方は、その『メダルキュア』に『プリキュアメダル』をセットして、オースキャナーでスキャンさせる。そしてこう叫ぶんだ。『プリキュア・スキャンング・トランス』ってな。」

彩華「・・・」

メダルを挿入し、スキャンさせる彩華。そして・・・

彩華「プリキュア！！スキャンング・トランス！！」

次回に続く。

~~~~~

#### ・次回予告・

彩華「それじゃ・・・行きますか！！」

御子「あ、あなた・・・彩華なの!？」

???「今のあたしは、彩華じゃないよ。あたしは・・・!!」

次回、「彩華の決意!! キュアフレイム誕生!!」

**第10話：彩華の決意！！キュアフレイム誕生！！（前書き）**

第2のオリジナルプリキュア、登場です！！

## 第10話：彩華の決意！！キュアフレイム誕生！！

ある放課後、下校中の事・・・

御子「彩華、今日はこれからどうするの？」

彩華「ゴメン！！今日もこれから用事があるの！！」

足早に立ち去る彩華。

御子「どうしたんだろ・・・最近。」

カバンからエルフィーが出てくる。

エルフィー「最近の彩華ちゃん、帰るの早いフィ。」

御子「何の用事があるんだろ・・・？」

~~~~~

彩華が向かった先は直也の家。ちょうど直也も帰ってきた。

直也「お、来たな。そんじゃ、今日も練習いくぞ！！」

彩華「よっし！！」

彩華の右手首には作者から受け取った『メダルキュア』が装着されていた。

~~~~~

・・・数日が経過したある日、御子が散歩をしていると・・・

エルフィー「御子ちゃん！！邪悪な気配フィー！！」

御子「ッ！！どっちの方から！？」

エルフィー「あっちの方フィー！！」

駆け出していく御子。

~~~~~

一方、今日も直也のところに來ていた彩華。

彩華「今日もお願いね！！」

直也「オッケー！！」

その時。

『マスター!!! 怪人反応です!!!』

直也「って!!! タイミング悪いな!!!」

彩華「・・・直也。」

直也「・・・行くのか？」

彩華「・・・うん!!! そんな・・・行きますか!!!」

メダルキュアを装着すると、右腰のポーチから取り出し、右手に持ったプリキュアメダルをオーズの伊達明のように指で上に弾き、左手でキャッチするとメダルキュアに挿入し、左腰のポーチから出したオースキャナーでスキャンさせる。

彩華「プリキュア!!! スキャンング・トランス!!!」

叫ぶと共に彩華は光に包まれた。

~~~~~

御子が駆けつけた先では、牛怪人が戦闘員達を引き連れて暴れている。

エルフィー「御子ちゃん!!!」

コミュニケーションを取り出す御子だが、背後から戦闘員一体が飛びかかってくる。

御子「!!!」

身構える御子だったが・・・

「フェザーアロー!!!」

声が響くと同時に戦闘員がクジャクの羽のような物で貫かれ、消滅した。

エルフィー「えっ？」

御子「い、今の・・・誰が？」

その時、戸惑う2人の前に誰かが降り立った。

赤基調の髪とコスチューム、仮面ライダーオーズ・タジャドルコンボと酷似したクジャクウイングを展開したその姿は・・・

エルフィー「も、もしかして・・・プリキュアファイ!？」

??? 「大丈夫？ 御子！！」

ウイングを閉じて振り返ったその顔は勿論……

御子「なっ……！？ あ、あなたまさか……あ、彩華……なの！？」

彩華「今のあたしは、彩華じゃないよ。あたしは……！！」

プリキュアとなった彩華が自身の戦士としての名を告げる。

彩華「邪悪を払いし紅蓮の翼！！キュアフレイム！！」

名乗りを挙げた彩華……キュアフレイムの姿に御子達だけでなく、怪人達も驚いている様子である。

フレイム「よっしゃ！！いくよ！！」

跳躍すると、急降下キックで戦闘員五体程をまとめて吹っ飛ばす。

直後別の戦闘員にラリアットを喰らわせ、そのまま他の戦闘員達もなぎ倒していく。

戦闘員達『イー！？』

背後から飛びかかってくるが、振り返りざまにキックを喰らわせる。

フレイム「はあ！！」

そして火炎弾を連射し、残りの戦闘員を一層した。

フレイム「後はあんただけよ！！」

怪人の方を向き、構えるフレイム。

怪人「グオオオオ！！」

怪人が突進してくるが、フレイムも逆に体当たりする。吹っ飛ばされたのは怪人の方。

フレイム「やあああああ！！」

そのまま一気に接近し、パンチ連打を叩き込んでいく。

フレイム「どりゃあああああ！！」

最後の一発を叩き込むと怪人の腕を掴み、勢いよく地面に叩きつけた。

怪人「グオッ！？」

起き上がって殴りつけてくるが、ガードされる。

フレイム「そんなの効かないよ！！」



怪人の拳を押し返すとエルボー、キックと連続で放つ、怪人を吹っ飛ばす。

フレ임「さあ・・・フィニッシュだよ!!」

ウイングで飛翔すると、スキャナーでメダルキュアをスキャンする。

『スキヤニングチャージ!!』

全身に炎を纏い、そして・・・!!

フレ임「プリキュア!!バーニングフェニックス!!」

フレ임の突進を受け、爆発する怪人。

フレ임「ふう・・・いっちゃあがり!!」

着地したフレ임に御子が駆け寄る。

御子「あ、彩華。いつプリキュアの力を・・・?」

フレ임「一週間前だよ。」

エルフィー「一週間前?そういえば彩華ちゃんが帰るのが早くなっていたのも・・・」

フレ임「うん。実は戦う練習してたの。直也に手伝ってもらって。」

「

御子「でもどうしてプリキュアに?」

フレ임「・・・いつもあんた達にばかり戦わせちゃって、あたしも何か力になれればって思って。」

御子「彩華・・・」

そこに・・・

ネスト「オイオイもう倒されてるじゃねえか!!しかも新しいプリキュアなんて聞いてないぞ!!」

ネストが現れた。

御子「ネスト!!」

フレ임「なによ、やる気!?!」

ネスト「当たり前だ!!消えてもらう!!」

カメ怪人を召喚するのだが・・・

フレ임「・・・って!!あれどう見てもク○パじゃん!!某国民

的カメの大魔王じゃん!! (汗)」

怪人の見た目はぶっちゃけ、どう見ても某カメの大魔王にしか見えない。(笑)

怪人「グオオオオ!!」

炎を吐いてきたので回避。

御子「クッ!!」

ネスト「覚悟しやがれ!!」

そこに・・・

「ちょっと待ったー!!」

セツトアップした直也がやってくる。

御子「直也君!!」

直也「ネストは俺に任せな。お前らは怪人を!!」

御子「うん!!」

直也はネストの方に向かった。

御子「プリキュア!! ライトニング・トランス!!」

変身する御子。

フレイム「御子。」

エルス「いくよ・・・フレイム!!」

フレイム「オッケー、エルス!!」

共に怪人に向かう2人。

怪人「グオオオオオ!!」

怪人が爪を振るってくるが、2人は回避。

エルス「はあっ!!」

エルスに蹴りを入れられ少し吹っ飛ぶ怪人だが、すぐに炎を吐いてきた。

フレイム「させない!!」

だがフレイムが火炎を放ち相殺。直後怪人に火炎弾を放つ。

エルス・フレイム「「はあああああ!!」」

そしてダブルパンチで怪人を吹っ飛ばした。

怪人「グオオオオオ!!?」

だがすぐ体制を立て直し、突っ込んでくる。

エルス「ッ！！」

かわすと、左右から同時にキックを叩き込む。

ドカアアア！！

だが怪人、まだ余力があるようだ。

フレイム「カメだけに打たれ強いみたい・・・」

エルス「必殺技、同時に決めるよ！！」

フレイム「うん！！」

『スキヤニングチャージ！！』

エルス「プリキュア！！ライジング・クラッシュ！！」

フレイム「プリキュア！！プロミネンスブレイク！！」

雷と炎のダブルキックを受け、怪人は爆発した。

ドカアアアアン！！

ネスト「ゲッ！！やられやがった！！」

直也「隙あり！！チャージショット！！」

ドーン！！

ネスト「ぐああああ！！クソ！！！！」

撤退するネスト。

フレイム「やったね！！」

エルス「うん！！」

ハイタッチする2人。

~~~~~

変身を解いた一同。彩華が自身がプリキュアになった経緯を御子に話した。

彩華「まあ・・・こういうワケでプリキュアに。」

御子「そんな事が・・・」

直也「悪い、黙ってて。キッチリ準備整えてから話した方がいいって事になってな。」

彩華「これからはあたしも戦うよ。もう御子だけに重荷は背負わた

くないもん。」

御子「彩華・・・うん。よろしくね、キュアフレイム!!」

~~~~~

御子達が話しているのを物陰から見ているのは・・・

ルシフェル「・・・仲間・・・か・・・お姉ちゃんにはあって、私には無いもの・・・」

どこか寂しげに呟くと、瞬間移動で姿を消した。

**番外編：人気投票のお知らせ（前書き）**

更新が遅れてすみません・・・

## 番外編：人気投票のお知らせ

作者「皆さんこんばんは。夢原信者です。本作も10話目を迎えたところで、人気投票を実施したいと思います。ルールは以下の通りとなります。」

1..一回につき3キャラまで投票可能。

2..再投票は何度でも可。ただし、同じキャラへの投票は1人1回まで。

作者「投票可能なキャラは以下のメンバーとなります。」

1..光明寺御子

2..エルフィー

3..夢野彩華

4..罪門直也

5..光明寺正

6..光明寺和子

7..ネスト

8..バラッド

9..ブラック・ルシフェル

作者「・・・以上です。投票期限は8月28日の午後6時までとします。皆さん、奮ってご投票ください!!」

## エルスとフレイムの協力技

■プリキュア・フレイム・クラッシュ■  
フレイムがエルスに炎のエネルギーを注入し、それを受けたエルスが炎を纏わせた必殺キックを叩き込む。

威力は約70t

■プリキュア・ライジングフェザー■  
エルスがフレイムに雷のエネルギーを注入し、それを受けたフレイムが雷撃を纏わせたフェザーアローを放つ。

■プリキュア・バーニング・スラッシャー■  
フレイムがエルスのライティング・ロッド（ソードモード）に炎のエネルギーを注入し、エルスが炎の斬撃を敵に向けて放つ。  
また、直接斬りつける事も可能。

■プリキュア・ライティング・フェニックス■  
エルスがフレイムに雷のエネルギーを注入し、それを受けたフレイムが全身に雷撃を纏った突進を放つ。

■プリキュア・ツインクラッシュ■  
エルスが敵後方、フレイムが敵前方に敵を挟むようにして立ち、フレイムが敵を蹴り上げたところでライジング・クラッシュとプロミネンスブレイクを敵を挟み込む形で同時に叩き込む。  
威力は約100t。



## 第11話（前書き）

タイトル思いつきませんでした・・・（汗）

## 第11話

「ヘルビーストアジト」

首領「何？新しいプリキュアだと!？」

ネスト「は、はい!! キュアエルの友人のガキなのですが・・・」

首領「ただでさえ面倒だというのに・・・さっさと始末しろ!!」

ネスト「は、はい!!」

その会話を盗み聞きしているのは・・・

バラッド「ほう。あの少女がプリキュアに・・・興味があるな。」

ルシフェル「バトルマニア・・・(汗)」

バラッド「何を言う!! 戦士たるもの強者との戦いを求めずどうする!!」

ルシフェル「ハア・・・」

バラッドと別れた後、一人考え込むルシフェル。

ルシフェル「(お姉ちゃんにはあって、私にはないもの・・・でも、手に入らなくて当然かもしれない・・・偽者の私には・・・)」

ルシフェル「偽者はどうあっても本物にはなれない・・・絶対に・・・」

~~~~~

御子の部屋で御子と直也がチェスをしており、彩華とエルフィーがそれを見ている。

御子「・・・チェックメイト。」

直也「あゝ!! また負けたゝ!!」

彩華「ありゃ、これで5連敗だね。」

直也「もう一回!! 光明寺、もう一回!! (焦)」

御子「そ、そんなに焦らなくても・・・ (汗)」

その時、ツインリボルバーが声を掛ける。

『マスター、そろそろ・・・』

直也「え？あ、ああ。もうそんな時間か。」

エルフィー「どうしたのフィ？」御子「もしかして防衛局の仕事？」

直也「ああ、ちよつとプリキュアハウスに。この前の『地球解放軍事件』の調書を受け取りにいく約束なんだ。じゃー！」

部屋を出る直也。

直也「確か今日『彼女』を呼んで白夜太陽達の裁判について聞く予定だったよな？」

『はい。そろそろ調書も仕上がってる頃かと。』

直也「よし。そんじゃ行くか！！」

ツインリボルバーの次元転移機能で灰色のオーロラを出し、入っていった。

~~~~~

エルフィー「そういえば、御子ちゃんと彩華ちゃんって幼なじみって聞いたフィ。」

御子「うん、そうだよ。」

エルフィー「どんな風にお友達になったフィ？」彩華「うーん、あたし達が幼稚園の頃なんだけどね、あたしがイジメられてた時に助けてくれたの。御子が。」

エルフィー「御子ちゃんが？」

彩華「そー！それからだったな、御子と仲良くなったの。」

御子「うん。それから小学校中学校といつも一緒だったね。」

エルフィー「御子ちゃんはエルフィーの事も助けてくれたフィー！！」

彩華「そういうトコは昔っから変わらないよね。」

御子「そ、そうかな？」

エルフィー「そうフィー！！御子ちゃんはエルフィーにとってヒーローフィー！！」

御子「あ、あははは・・・ありがとう。（苦笑）」

彩華「ん？そこはヒロインじゃない？女の子なんだし。」

エルフィー「フィ？」

暫し談笑していた3人だったが・・・

『プリキュアよ！！出てきたまえ！！』

外から大声が・・・

御子「な、何！？」

窓から外を見てみると、バラッドがスピーカーを持って呼び掛けている。

バラッド「いざ尋常に勝負したまえ！！」

御子「た、確かあの人・・・バラッド・・・（汗）」

彩華「あのバトルマニア！！あんな大声で！！」

飛び出していく3人。

~~~~~

彩華「ちょっとあんた！！あんまり大声で呼ばないでよ！！近所迷惑じゃない！！あとあたし達の正体バレたらどうすんの！！」

バラッド「む・・・これは失礼した。次からは場所を考えよう。」

御子「そ、そうして・・・（汗）」

バラッド「それはともかくプリキュア達よ！！お手合わせ願おう！！」

彩華「やっぱりそうくるか・・・御子！！いくよ！！」

御子「うん・・・！！プリキュア！！ライトニング・トランス！！」

彩華「プリキュア！！スカヤニング・トランス！！」

変身する2人。

エルス「救済と新生を司りし閃光・・・キュアエルス！！」

フレ임「邪悪を払いし紅蓮の翼！！キュアフレ임！！」

バラッド「ウム・・・ではこちらも2人でお相手しよう！！」

カニ怪人を召喚。

エルス「いくよ！！」

フレ임「オツケー！！」

バラッド達に挑む2人。

エルフィー「2人共頑張ってフィー!!・・・ん?」ふと見ると、少し離れた物陰からこちらを見ている人影に気づく。

エルフィー「あれって・・・もしかして・・・?」

そちらに向かうエルフィー。

~~~~~

???「・・・」

エルフィー「あ、あの!!」

エルフィーの声に振り返った姿は、黒尽くめの格好をしているが顔は御子そのもの。つまり・・・

ルシフェル「・・・お姉ちゃんのところの妖精の娘・・・だね。」  
非戦闘形態のルシフェルだった。

エルフィー「お姉ちゃん・・・?御子ちゃんの事フィー?」

ルシフェル「・・・」

エルフィー「あ、あの!!どうしてヘルビーストに協力するフィー?

あ、あまりその・・・悪い娘には見えないのに・・・」

ルシフェル「・・・私は闇の戦士。悪者以外の何者でもないよ。」

エルフィー「や、闇の戦士だからって、みんな悪者ってワケじゃないと思うフィー。闇の戦士だって、光と共存できる事だってあるフィー!!それに・・・前に御子ちゃんと戦った時、エルフィーの事気遣ってくれたフィー・・・」

ルシフェル「・・・例えそうでも・・・私にはお父さんしかない。  
お姉ちゃんの一部でしかなかった私に命を与えてくれた人を・・・裏切れない。」

立ち去るルシフェル。

エルフィー「あの娘・・・」

~~~~~

フレイム「プリキュア!!!プロミネンスブレイク!!!」

フレイムが怪人に必殺技を放つが耐えられてしまう。

怪人「グオオオオ!!」

エルス「ッ!! エルス・ライジングバインド!!」

怪人が反撃しようとするが、エルスのバインドで拘束される。

エルス「ハッ!!」

ドカッ!!

バラッド「うおっ!」

バラッドを蹴り飛ばし、フレイムに駆け寄る。

エルス「大丈夫?」

フレイム「う、うん!! でもアイツ堅いよ!!」

エルス「一人でダメなら・・・!! 合体技、いくよ!!」

フレイム「あ、あれね!! よっしゃ!!」

2人で怪人を挟むようにして立ち、フレイムが怪人を蹴り上げる。

『スキヤニングチャージ!!』

エルス・フレイム「プリキュア!! ツイン・クラッシュ!!」

両サイドからの必殺キックを受け、爆発する怪人。

バラッド「むう・・・流石だな。ご免!!」

撤退するバラッド。

フレイム「よっし!!」

そこにエルファイが戻ってくるが、元気がない。

エルス「エルファイ? どうしたの?」

エルファイ「さっきそこにルシフェルがいたフィ。」

フレイム「え!」

エルファイ「でもあの娘・・・御子ちゃんが言った通り、本当は悪い娘じゃないと思うフィ。」

エルス「何か・・・話したの?」

エルファイ「言ってたフィ・・・『私に命を与えてくれた人を裏切

れない』って・・・」

~~~~~

後日、『プリキュアオールスターズの世界』から戻ってきて、その話を聞いた直也。自室で考え込んでいる。

直也「・・・親を裏切れない・・・か。なんか似てるな・・・あの人に。」

直也の脳裏によぎるのは、自身にとって恩人といえる存在たる一人の女性の姿。

身寄りを無くした自分を救ってくれた彼女もまた、母への想い故に母の犯罪の片棒を担いってしまった過去があった。

直也「・・・『Fの連鎖』・・・か・・・。」

## 用語解説

### ■キュアエルスの世界■

本作の舞台となる世界。

本家シリーズ同様にこれまでにドックゾーン、ダークフォール、ナイトメア、エターナル、ラビリンス、砂漠の使徒による侵攻が起こっており、現在はヘルビーストとマイナーランドによる侵攻が起こっている。

原作プリキュア達も存在するが、本編に絡んでくるかは未定。

### ■フェアリーランド■

エルファイの生まれ故郷である妖精の国。女王が治めているらしい。初代プリキュアと言われるキュアアンジェと何か深い関わりがあったとか・・・？

### ■キュアエルス■

フェアリーランドに伝わる伝説の戦士プリキュア。

光明寺御子の変身し、雷の力や優れた格闘術、剣術を駆使する。20年前は光明寺和子の変身していた。

### ■ライトニング・コミュニケーション■

フェアリーランドに伝わるキュアエルスの変身アイテム。

強大な光の力を秘めているが清き心の持ち主にしか扱う事はできず、邪悪な者は触れる事すらできないという。

### ■キュアフレイム■

夢野彩華が変身するプリキュアで、プリキュアハウスで開発されたシステムによる変身としては仮面ライダーキラー、キュアディリーに次いで3番目。



炎の力を駆使する他、強靱な腕力を生かしたパワー攻撃や空中戦を得意とする。

#### ■メダルキュアー■

オーズドライバーを解析して開発されたキュアフレイムの変身アイテム。

仮面ライダーオーズに加えて、プリキュアハウスで収集された様々なプリキュア達の戦闘データがインプットされており、彩華に合わせた戦闘スタイルを自動で判断し、彼女の脳に直接伝える事も可能。

#### ■プリキュアメダル■

クジャクメダルを改造して作られたフレイム専用のコアメダル。メダルに込められていた欲望のエネルギーを光エネルギーに還元しており、通常のコアメダル以上の力を持つ。

オーズドライバーで使用する事も可能らしいが・・・？

#### ■ツインリボルバー■

直也専用のインテリジョンデバイス。

直也のパートナーとして、彼の仕事や戦闘をサポートする。

実は超小型のデータサーバーでもあり、膨大なデータを内包している他、その情報解析能力は一級品。

#### ■プロジェクトF■

『リリカルなのはの世界』に存在する、プレシア・テストロッサが確立した禁断の計画。

この計画のクロージング技術に御子のDNAとエルの戦闘データ、どこからかヘルビーストが手に入れたラグナロク・ストーンの一部を合わせる事によりルシフェルが造られた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5699s/>

---

プリキュアオールスターズ外伝 ～救済の戦士、もう一つの物語～

2011年11月13日22時08分発行